

買入及ビ販賣其ノ他業務ニ關シ、公益上必要ナル命令ヲ爲シ、又業務及ビ財產ノ狀況ニ關シ、常ニ監督ヲ爲シ、必要ト認ムルトキハ決議ノ取消、役員ノ解任ヲ爲ス等、其ノ事業ノ運營ニ付テハ十分ナル指導監督ヲ加ヘ、其ノ使命達成ニ過誤ナカラシムルコトト致シテ居ルノデアリマス。

而シテ瓦斯用薪炭ハ本會社ニ於テ其ノ生産者ヨリ直接ニ、又ハ取扱者ヲ通ジ一手ニ之ヲ買入レルコトトシ、其ノ配給モ亦本會社ニ於テ一手ニ之ヲ行フ建前ヲ取リマシテ、以テ本會社ノ機構ノ運用ニ依リ、瓦斯用薪炭ノ供給ノ確保ニ遺憾ナカラシムルコトヲ期シテ居リマス。

以上ガ日本瓦斯用木炭株式會社法案ノ内容ノ大要デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊アランコトヲ希望致シマス。

○小林委員長 委員ノ諸君ニ委員長ノ希望ヲ申上げテ置キタイト思ヒマス、御承知ノ通議會ノ日數餘スコト極ク僅カデアリマシテ、貴衆兩院ニ重要ナル法案ガ多數懸ツテ居リマス、サウ云フ譯デ本日ハ日曜ニモ拘ラズ、本會議竝ニ委員會ヲ開いて居ルノデアリマスカラ、隨テ大臣ヲ初メ政府委員ノ方々ニ於カレマシテモ、中々ドノ委員會ニモ註文通り出席ヲスルト云フコトハ、御困難ガアラウト思ヒマスノデ、委員ノ諸君ニ於カレマシテモ、其ノ點ヲ十分御諒解ノ上ニ、成ベク質疑ヲ簡略ニナサツテ戴キタレデハ土田君。

○土田委員 私ハ簡単ニ政府ノ所信ヲ質シタイト思ヒマス(賛成ト呼フ者アリ)——ソレデハ土田君。

○土田委員 私ハ簡單ニ政府ノ所信ヲ質シタイト思ヒマス(賛成ト呼フ者アリ)——ソレデハ土田君。

○土田委員 小林委員長の御審議ノ上速ニ御協贊アランコトヲ希望致シマス。

○小林委員長 委員ノ諸君ニ委員長ノ希望ヲ申上げテ置キタイト思ヒマス、御承知ノ通議會ノ日數餘スコト極ク僅カデアリマシテ、貴衆兩院ニ重要ナル法案ガ多數懸ツテ居リマス、サウ云フ譯デ本日ハ日曜ニモ拘ラズ、本會議竝ニ委員會ヲ開いて居ルノデアリマスカラ、隨テ大臣ヲ初メ政府委員ノ方々ニ於カレマシテモ、中々ドノ委員會ニモ註文通り出席ヲスルト云フコトハ、御困難ガアラウト思ヒマスノデ、委員ノ諸君ニ於カレマシテモ、其ノ點ヲ十分御諒解ノ上ニ、成ベク質疑ヲ簡略ニナサツテ戴キタレデハ土田君。

○土田委員 只今ノ御答辯ニ依リマシテ、

○島田國務大臣 山林局ノ機構ヲ改革スルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、十分研究ヲシテ見マス、尙ホ只今土田君ノ御意見ノ點ハ、参考ト致シマシテ御聽致シテ置キタイト思ヒマス。

○土田委員 只今ノ御答辯ニ依リマシテ、

○島田國務大臣 山林局ノ機構ヲ改革スルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、十分研究ヲシテ見マス、尙ホ只今土田君ノ御意見ノ點ハ、参考ト致シマシテ御聽致シテ置キタイト思ヒマス。

○土田委員 只今ノ御答辯ニ依リマシテ、

○島田國務大臣 只今土田君ノ御質問ノ牧野ノ區域ニ付テハ、大體御質問ノヤウナ趣意ニ依ツテ行キタイ、斯ウ考ヘテ居リマス、ドウゾ一日モ早ク此ノ混牧林ノ設置ニ對シマシテ、當局ニ於カレマシテハ十分ナリマス、大正初年ニ於キマシテ現在ノ畜產組合法ガ制定サレタノデアリマス、其ノ後此ノ畜產ノ實情ハ相當ナ進展ヲ致シマシテ、今日ノ發達ヲ來シテ居ルノデアリマス、此ノ裏面ニ於キマシテハ、政府ガ幾多スルノガ非常ニ便宜デアル、其ノ方ガ宜イ、斯ウ云フ場合ニ於キマシテハ、縣境ヲ越エカラ、ヤハリ此ノ牧野法ニ附帶致シマシテ、將來混牧林モ政府ガ之ヲ計畫致シマシテ、サウ云フ際ニ於キマシテハ、此ノ畜產ノ生產資源トナルベキ所ノ地帶ノ面積ガ增加スルノデアリマスカラ、完全ナル日本ノ畜產振興ノ上ニ於キマシテ、非常ニ大ナル結果ヲ齎スモノト私共ハ信ズルノデアリマス、仍テ此ノ混牧林ニ對シマシテハ、只今山林局ノ管轄ト相成ツテ居ルノデアリマスガ、此ノ混牧林ヲ真ニ合理的ニ設置ヲ致スト云フ場合ニ於キマシテハ、之ヲ山林局ノ管轄内ニ於テ、混牧林ヲ設置致スト云フ御考デアルカドウカト云フコトヲ承リタインデアリマス、サウシテ山林局ヲ林野局ト致シマシテ、更ニ現在ノ山林局ノ機構ヲ擴大致ス御意思アリヤドウカト云フコトヲ、簡單ニ御同致シタインデアリマス。

○島田國務大臣 山林局ノ機構ヲ改革スルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、十分研究ヲシテ見マス、尙ホ只今土田君ノ御意見ノ點ハ、参考ト致シマシテ御聽致シテ置キタイト思ヒマス。

○土田委員 只今ノ御答辯ニ依リマシテ、

ヲ致シマスレバ斯ウ云フ立派ナモノガ出來ル、サウ云フ眞ニ家畜ノ生産ニ對スル事業方面ニ向ハナケレバナラスト考ヘルノデアリマス、斯ウ云フ點カラ見マシタ時ニ、主務大臣ノ權限ニ依リマシテ、畜產組合ノ分割並ニ併合ト云フコトヲ、公益上カラ見テ致ス必要ガアルデハナイカト考ヘルノデアリマス、現在畜產組合ハ郡單位トナツテ居リマスルガ、之ヲ分割ヲスルコトガ公益上宜シト見定メノ御付キニナツタ場合ニハ、其ノ分割ヲスル、斯ウ云フ御意見ガアルカドウカ、又全縣一圓ノ組合デアリマシテモ、是モヤハリ必要ガアリマスレバ、其ノ分割ヲ致シテハドウカト云フコトハ、畜產行政ノ上カラ眞ニ當業者ニ、此ノ畜產業ニ密接ナ關係ヲ持タセル意味カラ致シマシテ、サウ云フ風チ畜產組合法ノ區域ニ變更ニ對シマシテ、政府ハ御考ガアルカドウカ、只今的确ナル御考ガナイトスレバ、將來此ノ點ニ對シテ御研究ヲナサルカドウカ、其ノ點ヲ御伺致シタインデアリマス

○島田國務大臣　只今ノ御質問ノ點デアリマスガ、是ハ現在ノ畜產組合法ニ依リマシテ、大體郡單位ト云フ風ニナツテ居ルノデアリマスガ、併シナガラ地方ノ事情又ハ實際ノ關係等カラ致シマシテ、只今御質問ノヤウナ、或ハソレヲ更ニ分割スル、又ハ從來縣單位、縣一圓デーツノ組合ヲ以テヤツ合スルヤウナヤリ方ヲシテ行クベキ途モ絶シテハ、是ハ各其ノ實情ニ依リマシテ、十分研究調査ヲ致シマシタ上デ、事實ニ適合スルヤウナ事例ノモノ等ニ付キマス、是ハアリマセヌノデ、ソレ等ノ點ニ付キマシテハ、實際ノ事情ヲ能ク調べマシテ、其ノ上デ適當ナル處置ヲスルヤウニ、是ハ

○吉田委員　最後ニモウ一點御願致シタイノデアリマス、私ハ此ノ畜產組合ノ主務大臣ノ權限ニ對シマシテ、御伺致シタイト思フノデアリマス、殊ニ區域ノ分割併合ニ對シマシテ、畜產組合法第三十八條第二項ニ依ル主務大臣ノ權限ヲ承リタイト思フノデアリマス、大體只今大臣ノ御答辯ノヤウニ、地方長官ニ大部分ハ其ノ監督權ヲ委任ナサレハ他ノ團體ト違ヒマシテ、畜產ノ施設ニシマシテ、大ナル疑惑ヲ抱キマシテ、眞ニ畜產ノ分限ナイトアリマス、隨テ主務大臣ダケノ權限ニ依ツテ、其ノ分割併合ハ可能ナノデアルノデアリマス、是ハ私ハ此ノ畜產組合法制定ノ際ニ、深ク地方ノ實情ヲ考ヘテ、主務大臣ニアラザレバ新タル組合ヲ組織スルコトハ出來ヌト云フコトニ致シタコトト推察致シ得ルノデアリマス、此ノ現在組織シテ居ル組合ノ監督ハ地方長官デ宜シウゴザイマスガ、新ニ組合ヲ設置シ——分割サレマシテモ、併合サレマシテモ新シキ組合ト成ルノデゴザイマス、其ノコトハ主務大臣ダケノ權限デアルト云フコトハ、私共ハ此ノ畜產組合法ノ非常ニ大キナ權威ト思フノデアリマス、是ハナゼサウ私共ハ考ヘルカト申シスマレバ、地方長官ハ色々ノ地方ノ政黨トカ、或ハ幾多ノ派生的問題トカヨリ致シマシテ、眞ニ畜產業者ノ利害ト關係セズシテ、政略ノ具ニ供サレマシテ或ハ此處ヲ分割シテヤル、或ハ之ヲ併合スルト云フコトヲ考ヘル場合ガ多イノデアリマス、殊ニ上デ適當ナル處置ヲスルヤウニ、是ハ

○吉田委員　最後ニモウ一點御願致シタイノデアリマス、私ハ此ノ畜產組合ノ主務大臣ノ權限ニ對シマシテ、御伺致シタイト思フノデアリマス、殊ニ區域ノ分割併合ニ對シマシテ、畜產組合法第三十八條第二項ニ依ル主務大臣ノ權限ヲ承リタイト思フノデアリマス、大ナル疑惑ヲ抱キマシテ、眞ニ畜產ノ分限ナイトアリマス、隨テ主務大臣ダケノ權限ニ依ツテ、其ノ分割併合ハ可能ナノデアルノデアリマス、是ハ私ハ此ノ畜產組合法制定ノ際ニ、深ク地方ノ實情ヲ考ヘテ、主務大臣ニアラザレバ新タル組合ヲ組織スルコトハ出來ヌト云フコトニ致シタコトト推察致シ得ルノデアリマス、此ノ現在組織シテ居ル組合ノ監督ハ地方長官デ宜シウゴザイマスガ、新ニ組合ヲ設置シ——分割サレマシテモ、併合サレマシテモ新シキ組合ト成ルノデゴザイマス、其ノコトハ主務大臣ダケノ權限デアルト云フコトハ、私共ハ此ノ畜產組合法ノ非常ニ大キナ權威ト思フノデアリマス、是ハナゼサウ私共ハ在來サウ固ク信ジテ居ツタノデアリマスガ、最近或ル地方ニ於キマシテハ、地方長官ノ權限ヲ以テ、之ヲ分割或ハ併合スルノダト云フ其ノ目的カラ、現在ノ畜產組合ノ選舉ヲ命令ヲ以テ延期シタ、併シ延期スル所ノ行政行為ガ地方長官ニ出來ルノデアリマスカ、延期スル理由ハ國務大臣シテハ、大體土田君ノ御述ベニナリマシタ通リ、畜產組合法ノ規定ニ依リマシテ地方長官ガ之ニ當ツテ居ルノデアリマシテ、主務大臣ト致シマシテハ、地方長官ノ報告ニ依ツテ、之ニ對スル監督權ヲ行使スルコトニナツテ居ルノデアリマス、隨テ地方長官ガ其ノ監督ニ於テ宜シキヲ得ナイ、又地方長官ガ出シタ所ノ命令ガ公益ニ反スルト、斯ウ云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、是ハ只今御話ノ第三十八條ノ一項ノ規定ニ依ツテ適當ノ處置ヲスルト云フコトニモナル譯デアリマスガ、大體ノ監督ノ順序ガ左様ニナツテ居ルノデアリマスルカラ、只今ノ御

質問中ニアリマスヤウナ事實ガ、現ニアツタト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、是ハソレニ對スル適當ナ處置ヲシナケレバナラヌノデアリマスガ、ソレ等ノ事柄ニ付キマシテハ、先づ本省ト致シマシテハ十分調査ヲシ、又研究ヲ致シマシテ、果シテ不都合コトデアルカドウカト云フコトヲ見究メタ上ニ於テ、措置ニ出ルベキコトデアルト考ヘテ居リマスガ、御質問ノヤウナ點ニ付キマシテハ、事實ノ有無ヲ十分取調ヲ致シマシテ、適當ニ處置ヲシテ行キタイト、斯様ニ考ヘテ居リマス。

○土田委員 只今大臣ノ御答辯ニ依ツテ、政府ノ畜産當業者ニ對スル誠意ノ點ハ、私共ハ首肯致シタノデアリマスルガ、特ニ此ノ合併ト分割ニ對シマシテハ、地方長官ノ監督權モ及ボスコトハ出來ヌ、又地方長官ガ之ヲ考慮スルコトモ出來ナイ、之ヲ又地方長官ノ考ニ依ツテ、分割竝ニ合併スコルトハ出來ヌ、畜產組合法第三十八條ノ二項ノ規定ニ依リマシテ、公益上必要ナル場合ト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ命ズルコトガ出來ルト云フノデアツテ、公益上必要ナル云フ條件ガアルノデアリマスカラ、此ノ點ニ付キマシテハ個々ノ場合ニ付テ十分調査ヲシテ、條項ニ當嵌ル場合ニハ、此ノ監督權ノ發動ガアルト考ヘテ居リマスガ、云フコトヲ希望致シテ置クヤウナ次第アリマス。

○小林委員長 一昨日坪山君ノ質疑ニ對スル政府ノ御答辯ガ残ツテ居リマス、若シ御答辯ガゴザイマスヤウデシタラ、此ノ際農林大臣、拓務大臣、陸軍大臣ノ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス、御發言ノ御順序ハドウゾ御打合ノ上デ、然ルベク願ツテ宜シウゴザイマス、尙ホ其ノ御答辯ノ後御都合ガ宜シクト、引續キ質疑ニ御答下サレバ結構デアリマスケレドモ、御都合ガ惡イヤウデシタラ御退席下スツテ宜シウゴザイマス、又他ノ機會ニ御願申上ゲルカモ知レマセス、是ダケ申上ゲテ置キマス。

○島田國務大臣 坪山君ノ御質問ノ點ニ付テ私ニ關スル部分ヲ一應御答申上げテ置キマス、其ノ一つハ牧野ノ擴充ト、農耕地トノ關係ノ點デアツタ思ヒマスガ、御承知ノ如ク牧野ハ原則トシテ農耕ニ適シナイ地域ニ設ケラルト云フコトガ大體ノ事實デアリマス、隨テ牧野ト農耕地トガ抵觸スルト云可ヲ受ケテ出來タ組合ノ擁護ノ爲ニハ、地

方長官ハ容喙スルコトハ出來ズシテ、主務大臣ノ權限ノミニ依ツテ初メテ合併ト分割ハ出來得ルノデアリマスルカラ、此ノ主務大臣ノ權限ト云フモノハ何人モ侵害シ得ナイ權限デアツテ、何人モ之ヲ論議スベカラズル所ノ權限デアルト云フコトヲ、明ニシテ戴キ、タイノデアリマス、其ノ點ヲ承リタインデアリマス。

○島田國務大臣 只今ノ御質問ノ點ハ尙ホ研究致シマスガ、大體組合ノ合併トカ或ハ分割ハ組合ノ會議、組合員ノ總會ノ決議等ニ依ツテ、之ヲ地方長官ガ認可ヲスル組織ニナツテ居ルノデアリマシテ、農林大臣トシテ、之ヲ地方長官ガ認可ヲスル組織ニナツテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ付テハ私共ハ只今大臣ノ説明ヲ承ツタノデアリマスガ、ドウシテモ此ノ主務大臣ノ權限ハ侵犯サレザルヤウニ擁護セラレマシテ、當業者ノ不安ヲ排除シテ戴キタイト云フコトヲ希望致シテ置クヤウナ次第アリマス。

○小林委員 組合ノ組織ノ當初ニ際シマシテハ、地方長官ハ認可スル權能ガアルノデ係デアルノデアリマス、此ノ合併分割ハ主務大臣ガ直接當業者ニ對スル所ノ權限デアリマス、地方長官ノ政府カラ第一次監督シリテ命令ヲ受ケマシタ範圍ノ權限ニナイノデアリマス、直接當業者對主務大臣ノ關係アルノデアリマス、此ノ合併分割ハ主務大臣ガ直接當業者ニ對スル所ノ權限デアルノデアリマス、其ノ間ニ地方長官ノ介在ヲ許サナイ法律ノ精神デアルノデアリマス、若シモ地方長官ガ斯ウ云フ重大ナル權限ニ對シテ、其ノ權限行使ヲ理由ノ根據ト致シテ、命令ヲ發スル場合ニ於キマシテハ、當業者ハ將來國務大臣ヲ頼ツテ、自己ノ計畫ヲ進メントスルニ際シマシテ、多大ナル

次ニ牧野法ヲ改正致シマシテ、國有林及ビ國有未開地ノ中ニ於ケル牧野適地ニ付キマシテハ、常ニ調査ヲ實施致シテ居ルノデアリマシテ、其ノ調査シタ土地ニ付キマシテハ、今後大分開放スル考ヲ以て對處シテ居ル次第アリマス、尙ほ放牧林ノ設置等ニ付キマシテモ考慮致シマシテ、牧野ノ擴大ニ付テ遺憾ナキヤウニ致シタイト考ヘテ居ル次第アリマス

其ヲ次ニ馬產試驗場ノ設立ハ、焦眉ノ急務デアルガ云々ト云フ御質問デアリマスガ、之ニ對シマシテハ政府ニ於キマシテモ、馬產ニ關シ各種ノ基礎的事項ヲ調查研究スルノ必要ヲ認ヌマシテ、既ニ其ノ設立ノ計畫ヲ立テテ居ル次第アリマス、隨テ此ノ次ノ議會ニ於キマシテ、成ルベク之ニ對スル豫算等ヲ請求致シマシテ、其ノ計畫ヲ實現サセセルヤウニ致シタイ考ヘテ居ル次第アリマス、以上農林大臣トシテ御答スル點ニ付テ……

○坪山委員 モウ少シ殘ツテ居リマスガ、將來ノ家畜飼料ハ何レノ國ニ之ヲ依存スル積り力

○島田國務大臣 飼料ノ供給ニ付キマシテハ、度々申上ゲマスルヤウニ、粗飼料ニ付テハ、國內ニ於テ需給ノ關係ガ十分デアリマスガ故ニ、國內需給ノ方針デ、是が獎勵ノ方法等ニ依ツテヤツテ行キタイト思フノデアリマシテ、農耕飼料ニ付キマシテハ、其ノ一部分ヲヒニ求メナケレバナラズ現狀ニアル次第デアリマス、事變以來我國ノ國際收支ノ權衡ヲ圖ルト云フヤウナ意味カラ致

シマシテ、第三國輸入ト云フコトヲ、満洲ニ振替ルコトノ方針ニシタノデアリマスガ、將來ニ於キマシテモヤハリ大體此ノ方針ヲ堅持シテ行キタイ、飼料ノ増産等ニ付キマシテハ、國內ニ於テモ與フル限り増産ノ方法ヲ立テマスト共ニ、滿洲國ニ對シテモ是ガ實行ノ點ニ付テ十分協議ヲ致シマシテ、此ノ飼料ノ確保ニ付テハ左様ナ方針ヲ以テ進ミタイト考ヘテ居リマスガ、本年ノ實情等ニ鑑ミマシテ、將來トモ出來ルダケ緊密ナル連絡ヲ執ツテ、確實性ヲ増スヤウニシテ行キタイ、斯様ナ考ヲ持ツテ居リマス○小磯國務大臣 坪山君ヨリ拓務大臣ニ對スル御質問ト致シマシテハ、朝鮮馬政計畫ノ現況ト將來ノ見込ト云フコトニ付テデアルト承知シテ居リマス、朝鮮ハ御承知ノ通り舊來ノ馬ト云フモノハ朝鮮ノ在來馬、詳シク申シマスルト濟州島馬以外ハ殆ドアリマセヌ、主トシテ勞役獸ト致シマシテハ、牛ヲ常用シテ居リマシテ、馬ヲ常用致シマセヌ、ソレガ爲ニ馬政ト云フモノガ一ツモ伸展シテ居ラナカツタノデアリマス、然ル所馬匹資源、就中軍用馬ノ資源ハ、戰時ニ於キマシテ海ヲ超エテ輸送スルト云フコトハ、非常ニ不經濟的行爲デアリマス、大陸ソレ自體ニ於テ生産セシメツツ現地ニ於テ補充スルト云フコトガ最モ賢明デアリマスノデ、滿洲ソレ自體ニ於テモ今日馬產ノ改ルト云フコトガ、近年ニ至ツテ叫バレテ參良ニ從事シテ居リマスルコトハ御承知ノ通リデゴザイマス、左様ナ見地ニ基キマシテ朝鮮半島ニ於テモ馬政ノ振興ガ必要デアルト云フコトガ、近年ニ至ツテ叫バレテ參良ニ從事シテ居リマスルコトハ御承知ノ通リマシタ、殊ニ現任南總督ハ特ニ此ノ馬政ノ振興ト云フコトニ熱心デアリマシテ、最

畫ニ基ク實行ニ著手ヲ致シマシタ、尤モ朝鮮馬、即チ濟州島馬ハ御承知デモゴザイマセウガ、アレハ蒙古馬ノ非常ニ退化シタモノデゴザイマシテ、之ヲ基礎トシテ改良スルト云フコトハ、殆ド不可能デアルト云フ定論ニ到著シテ居リマスシ、又蒙古馬ヲ基礎トシテ改良シマシテモ、動トモスルト不良ナル馬種ヲ生産スルト云フ從來ノ經驗ニ鑑ミマシテ、專ラ内地改良馬ヲ主體トショウト云フコトニナツテ居リマス、特ニ朝鮮ノ半島同胞ハ馬ヲ常用致シマセヌガ、鮮滿國境地帶ノ地域ハ、概シテ畜產ニ適スルト云フヤウナ關係カラ致シマシテ、將來是非此ノ地帶デ馬產ヲ進メテ行キタイト云フコトニ決定シテ居リマス、唯嚴格ニ申シマスト、永年計畫ニ基ク年度ノ實績ガ未ダ希望ノ點ニ到達シテ居リマセス、併シソレニシテモ大體順調ナル歩ミヲ示シテ居リマスノデ、今後努力ヲ傾倒致シマスルナラバ、此ノ馬產ノ將來ハ決シテ悲觀スル必要ハナイモノデアルト考ヘテ居リマス、昭和十五年度ニ於キマシテモ、關係豫算六十五萬圓ヲ計上シテ居リマシテ、實績ノ昂揚ニ努力スルコトニナツテ居リマス、左様御承知ヲ願ヒマス

密度ハ特ニ南鮮方面ニ於テ著シク稠密ニシテ、内地ノ人口密度ト大差ガゴザイマセヌ、北鮮ノ方面ニ於テ多少稀薄ノ状態ヲ呈シテ居リマスルガ、南鮮ヨリ北鮮ニ勞力ノ移動ヲ行フコトニ依ツテ之ヲ調節スルコトハ實行モシテ居リマスルシ、隨テ朝鮮ニ於ケル所ノ勞力ノ不足ヲ、ソレ自體ニ於テ告ゲルト云フコトハ現在ニ於テハゴザイマセヌ、左様ナ關係ニ於キマシテ今後相當數ノ勞働力ヲ、朝鮮半島カラ内地ニ移動スルヤウナコトヲ實行致シマシテモ、朝鮮ソレ自體ノ労働力ノ不足ヲ告ゲルコトハナイト考ヘテ居リマス

フ御質問デアリマス、今回ノ事變ニ於キマシテハ、滿洲、北支及ビ蒙疆地方ノ支那馬ヲ相當多數利用致シテ居リマスガ、是等ハ何レモ資質ガ不良デアリマシテ、其ノ能力ハ日本馬ノ約二分ノ一、若クハ三分ノ一程度デアリマス、隨ヒマシテ主トシテ斯ウ云フモノハ歩兵隊若クハ輜重隊等ノ輓駄馬ニ利用シテ居ル狀況デアリマス。

次ニ事變下ニ發生致シマシタ病馬及び損耗馬デアリマスガ、是ハ著シク多數ニ上ツテ居リマシテ、從來ノ日清日露等ノ戰役ニ比較致シマスト、相當多イノデアリマス、殊ニ初期ニ於キマシテハ、平病竝ニ之ニ依ル損耗ガ非常ニ多カツタノデアリマスガ、最近事態ノ平靜ニ伴ヒマシテ斯ウ云フモノハ逐次ニ減少致シテ來テ居リマス、病馬中何ガ一番多イカト申シマストヤハリ鞍傷ガ約三割、過勞及ビ榮養不良ガ約二割デアリマシテ、其ノ他蹴傷、銃創、疝痛、鼻加答兒等モ相當發生致シテ居リマス。

次ハ今次事變ニ際シマシテ、徵發致シマシタ軍馬ノ資格及び能力デアリマスガ、是ハ徵發地方ニ依リマシテ非常ニ異ツテ居リマス、先づ大體ニ申シマシテ、マダ十分デナイモノガ相當多數アルノデアリマス、其ノ通有的缺陷ト認ヌラレマスモノハ次ノヤウナ點デアリマス、其ノ一つハ一般ニ體幅骨量ニ乏シク、胸狹ク四肢細長、體質虛弱デアリマシテ、軍馬所要ノ負擔力、輓曳力竝ニ持久力ニ大ナル缺陷ガアルノデアリマス、次ニ性質ガ過敏デアリマシテ、又馴致居リマシテ、取扱困難ナモノガ少クアリマセス、第三ハ發育不全又ハ榮養不良ニ陥ツテ居ルモノガ多イノデアリマス。

第三ノ御質問ハ軍馬ノ功績ニ對シテ、軍獨自ノ立場ニ於テ慰靈感謝等ヲ行フコトニ付テ、ドウ云フ考ヲ持ツテ居ルカト云フコトニハ、軍馬ノ寄與致シマシタ功績ハ洵ニナルモノガアルト云フコトニ付キマシテハ、今更申スマデモナイ所デアリマシテ、是等軍馬中不幸癱斃トナリマシタモノガ少クナインデアリマス、私モ實際戰場ニ於キマシテ、度々力盡キテ斃レテ行ク馬ノ狀況ヲ見タコトガアリマスガ、斯ウ云フモノヲ見マス私共ハ、ドウシテモ涙ナクシテ其ノ場ヲ過去ルコトガ出來ヌヤウニ思フノデアリマシテ、衷心カラ哀悼ノ情ニ堪ヘナイ所デアリマス、ソコデ是等忠順ナル軍馬ノ功績ニ報ヒ、且ツ慰靈ノ手段ヲ講ジマスコトハ固ヨリ當然ノコトト存ジマス、軍ニ於キマシテモ功績アル軍馬ニ對シマシテハ、御承知ノ通リニ功勞章ヲ付與致シ、又派遣部隊等ニ於キマシテハソレド軍馬慰靈碑ノ建立、又ハ慰靈祭ノ執行等ヲ實施シテ居ル次第デアリマス、又愛馬ノ日、軍馬祭等ノ日ヲ定メマシテ、國民一般ガ馬ニ對シ、感謝慰靈ヲ致スコトトナツタノモ、此ノ趣旨ニ外ナラナイノデアリマス、將來更ニ此ノ趣旨ヲ一層徹底スル爲、忠靈塔ニ準ジマスル軍馬記念塔ノ如キモノモ建立スルコトニ付キマシテ、研究致シテ居リマス、實際斯ノ如ク致シマシテハ、一般ニ馬事思想ヲ普及致シマシタラバ、先程申シマシタ馬ノ損傷ト云フヤウナコトモ、ズット減ルグラウト豫ネ／＼私共ハ考ヘテ居ル次第デアリマ

ドウダト云コトデアリマス、本年度實致シマシク日本馬ノ滿洲移植事業ハ、何分ニモ第一年度ノコトデアリマスノデ、色々手違ヒ、困難ガアツタノデアリマス、幸ヒ關係官民ノ努力ニ依リマシテ、順調ニ實施スルコドガ出來タゞデアリマス、移植馬ハ軍用保護馬又ハ其ノ検定ニ合格シタモノカラ選定シテ居ルノデアリマスガ、内地馬資源ノ關係カラ一部ニ於キマシテハ軍馬トシテノ資糧ガ十分デナイモノナナイデハアリマセヌガ、大體ニ於キマシテ相當ノ有能馬ヲ移植出來マシタノデ、有能馬軍馬資源整備上、大ナル貢獻ヲ成スモノト信ジテ居リマス、又本移植馬ヲ受領致シマシタ開拓民ハ、全ク是ハ内地カラ自分ノ家族ヲ迎ヘタヤウナ氣持レタ爲ニ可ナリノ困難モアリマシタガ、大アリマス、隨ヒマシテ其ノ飼養管理等ニ付テモ十分ナ注意ヲ拂ヒ、入植時期ガ少シ遅ニテ、非常ニ之ニ感謝シ、満足シテ居ルノデアリマス、隨セラレテ居リマス、只今マダノ損耗馬ハ輸送間ノモノモ含ヌマシテ、約四%ニ過ギナイト云フ好成績ヲ收メテ居リマス、尙ホ極ク少數デハアリマスガ、年齢ナドニ誤リガアツタコトヲ聞キ及ンデ居リマスガ、是ハ洵ニ遺憾ナコトデアリマスノデ、將來關係當局トモ十分連絡致シマシテ、左様ナコトノナイヤウニ致シタイト存ジテ居リマス

軍用ニ供シ得ル有能馬ハ極メテ少數アリマス、今ノ所軍ノ期待ニ副ハナイ所ガ大ナルモノガアリマス、満洲國ニ於キマシテハ、日滿ニ亘る馬政國策竝ニ新内地馬政計畫等ニ即應致シマシテ、本年一月カラ從來ノ計畫ヲ改編擴充致シマシテ、軍用小格馬ノ供給ヲ潤滑ナラシメマスト共ニ、產業開發ノ要請ニ應ズルコトヲ主眼ト致シマシテ、改良増殖ヲ圖ル新計畫ヲ立テ居リマス、尙ホ其ノ上ニ馬產ニ關スル機構ヲ擴充整備致シマシテ、銳意努力中デアリマス、隨テ同國ニ於キマス馬ノ利用、飼料及ビ牧野等ノ狀況ガ、馬產上有利ナル諸條件ヲ持ツテ居ルモノト相俟チマシテ、將來軍馬資源地ト致シマシテ、有望ナルモノト期待シテ居ル次第デアリマス、併シ其ノ技術、飼養管理等ガ未ダ未熟不備ナ點ガ多ク、日本馬ノ如キ有能馬生產ハ當分期待シ得ナイモノト思ツテ居リマス、尙ホ馬關係首腦者ガ昨年一月更迭致シマシタガ、前ニ申シマシタヤウニ、當時新馬政計畫ガ樹立セラレ、之ニ伴ヒ、馬產方針等ニ相當ノ改編ヲ見マシタガ、是ハ決シテ首腦者ノ更迭ニ起因スルノデナイト云フコトヲ御諒承願ヒタインデアリマス

外満洲ニ於ケルト同様劣悪ナモノが多く、軍用ニ供シ得ル有能馬ハ僅少ノ見込デゴザイマス、尙ホ將來是等地方ノ馬産ニ付キマシテハ、戰時ニ於キマスル國軍ノ利用ヲ考慮致シマシテ、小格馬ヲ目標トシテ、治安ノ回復及び產業ノ開發ニ伴ヒマシテ、漸進的ニ是ガ増殖及ビ改良ヲ圖ルヤウ指導スル意向ヲ持ツテ居リマス。

明申上ゲタイト思ヒマス、北支、蒙疆ニ於キマ
スル馬ノ點ニ付キマシテハ、只今軍務局長力
ヲ御答辯ノアリマシタ通リデアリマス、大體其
ノ改良増殖ノ關係ニ付キマシテハ、蒙疆側
デハ牧畜試驗場、種畜牧場、家畜防疫所ト
云フモノガ既ニ設置セラレテ居リマス、一般
畜產ノ改良増殖ニ既ニ著手致シテ居リマス、
北支ニ於キマシテハ、華北產業科學研究所
ノ中ニ、畜產及ビ防疫施設ガ出來テ居リマ
シテ、各種ノ家畜及び獸疫ニ關スル試驗研
究ヲ既ニヤツテ居ルノデアリマス、又極ク
小規模デハゴザイマスガ、豫防血清ノ製造
配付ト云フコトモ始ステ居ルノデゴザイマ
ス、只今御答辯ノアリマシタヤウニ、目下
馬ニ付キマシテハ各般ノ研究中デゴザイマ
ス、ソレト同時ニ特ニ防疫ノ施設ニ付キマ
シテ力ヲ注イデ行キタイト云フ風ニ思ツテ
居リマス、ソレカラ飼料ニ付テモ御質問ガ
ゴザイマシタガ、北支、蒙疆、特ニ北支自
ノ關係モアリマスノデ、家畜ノ粗飼料ノ方
ハ、相當現地ニ於キマスル供給ニ付テモ困難
ガアルノデアリマス、濃厚飼料トシテノ穀
物類ハ、御承知ノ通り北支ニ於キマシテハ、

民衆ノ食糧品トシテモ不足シテ居ルト云位デゴザイマシテ、家畜飼料ノ點ニ付キマシテモ、或種ノ困難ガアル譯デアリマス、是ハ支那ノ歎ガ參ツテ居ルノデアリマス、是ハ昨年ノ統計ニ依リマスト、北支カラコロルニ参ツテ居リマス歎ノ量ハ、十四年度ハ曆年デゴザイマスガ、二十二万五千「ピク」ト云フコトニナツテ居ルノデアリマステ、前ヨリモ相當分量ガ減ツテ居ルノデアリマス、是ハ日本側カラ見マシテモ、成タケ多量入レルト云フコトガ必要デアルト思フノデゴザイマス、是等ノ集荷ノ問題ハ治安、作柄バカリデナク、支那人民ノ食糧問題ニモ關聯シテ非常ニ微妙ナ點ガゴザイマスノデ、ドレダケ本年度ニ於テ期待出来ルカト云フコトハ、申上ガル數字ガナインデアリマス

陸軍兩當局モ是ハ御承知ノ所デアリマス、隨テ馬ノ生産竝ニ育成方面ニ對シテハ、經濟的ニ大キナ打擊ヲ與ヘテ居ルト云フコトモ亦御認ニナルデアリマセウ、併シナガラ是ハ本年バカリデハナイ、年々馬產ノ經濟ト云フモノハ到底採算ノ取レザルモノデアリマシテ、或ハ帝國馬匹協會總會、或ハ又馬ニ關スル法案ノ出タ度毎ニ、馬ノ購買價格ノ向上ニ對シテハ要望シテアルノデアリマスケレドモ、更ニ政府ノ方デハ之ヲ取上ゲル意圖ハナイ、隨テ今日デハ馬產ノ生產方面ニ於キマシテ、果シテ馬ト云フモノガ政府ノ方デ必要ノモノカドウカト云フコトニ、疑フ挾ムニ至ツタヤウナ狀態デアリマスルカラ、分リ切ツタコトデアリマスケレドモ、私ハ先ヅ以テ、陸軍、農林兩大臣ノ御考ヲ質シテ、馬ノ生產確保ニ對シテ動搖シテ居ル馬產家ニ、安心ヲ與ヘタイト思フノデアリマス

○武蔵政府委員 一體馬ヲ眞ニ軍トシテ必
要ナモノト認メテ居ルカドウカト云フ御尋
ノヤウデゴザイマスガ、是ハ申スマデモナ
イコトデアリマシテ、昔カラ兵馬或ハ兵馬
ノ大權ト申シマシテ、此ノニツガアツテ初
メテ軍ハ成立ツモノデゴザイマス、最近自動
車等ガ發達致シマシテ、軍ノ機械化ト云フ
ヤウナコトヲ申スノデゴザイマスガ、無論
是モ必要デゴザイマスルガ、前ニ申シマス
如ク軍ノ機動、眞ノ戰鬪ト云フコトニ
リマスト、現在ノ所下ウシテモ馬ヲ必要ト
スルノデアリマス、ソレデ先程坪山委員ニ
對シテモ私カラ申上ゲマシタ如ク、此ノ馬
ノ増産ト云フコトニ付キマシテハ、陸軍ト
シテハ深甚ナル關心ヲ持ツテ居ル次第デア
リマス

10. The following table summarizes the results of the study.

外局トハ言ヒナガラ、所管トシデヤラレテ
居ルノデアリマス、私ハ小笠原君ノ御質問
ノ御趣意ハ、現状ニ對シテ非常ニ憂慮ヲセ
ラレ熱心ノ餘リニ、御問ヒニナツテ居ルコ
トト思フノデアリマス、唯其ノ次ニ來ル御
質問ハ、ドウ云フ點ニ觸レルモノカ知レマセ
スガ、決シテ軍ト致シマシテモ國ト致シマ
シテモ、馬ノ關係ヲ等閑ニ付スルトカ、或
ハ輕視スルト云フヤウナ意味ハ絶對ニナイ
ノデアリマス、是モ亦能ク御承知ト思ヒマ
スガ、唯馬ノ育成其ノ他ニ付キマシテハ、
他ノ動物ト比較致シマシテモ非常ニ手數方
掛ル、飼料ヲ要スル、又土地其ノ他ノ關係
ニ於キマシテモ色々々ナ事情ヲ異ニシテ居ル
ノデアリマシテ、左様ナ關係カラ致シマシ
テ、國ノ之ニ對スル費用ト云フヤウナコト
ガ十分ニ及バナイ、斯様ナ點ニ遺憾ナ所ガ
アルノデアリマシテ、ソレ等ノ點ニ付キマ
シテハ或ハ競馬法ヲ施行シテ、其ノ收入ヲ
以テ之ニ充テル、其ノ金ダケデハ足ラス、
尙ホ之ヲ擴張シテ行クト云フヤウニ色々
ツテ居ルノデアリマスガ、何分今申シマス
ヤウニ生産ノ方面ノ費用ト云フモノガ非常
ニ掛リ、隨テ馬ヲ買上ゲルト云フヤウナ場
合ニ、其ノ値段ガ十分デナイ、隨テ其ノ費
用ノ一部ハ馬ヲ飼フ者ノ負擔ニ歸スル、馬
ヲ飼フ者ト言ヘバ、詰リ農家ノ負擔ニソレ
ガ歸スル、斯ウ云フヤウナ事情ニナルト云
フ此ノ現狀ニ付キマシテハ、非常ニ遺憾ニ
思ウテ居ルノデアリマスガ、決シテ今御質
問ノ上ニ現ハレテ居ルヤウナ、馬ヲモウド
ウデモ宜イト云フヤウナ考ヲシテ居ルコト
ハ決シテネイノデアリマス、又ソレト同時
ニ内地ノ馬ハモウアリ形ノ儘デ成行ニ任
ス、主トシテ満洲北支ノ方面、外地ノ方面

ニ於テ馬産ノ計畫ヲ充實シテ行クト云フ
ウナ意思ガアルカト云フ、——左様ナコト
ハナイノデアリマスガ、或ハサウ云フヤウ
ナコトガアリハシナイカト云フヤウニ熱心
ノ餘リ見フレテ、サウ云フ感じヲ起スヤウ
ナ事情ガ幾ラカアルト云フコトニ付テハ、
洵ニ共ニ遺憾ニ考ヘテ居リマスガ、是等ノ
點ニ付キマシテハ尙ホ十分ニ努力致シマシ
テ、サウシテ計畫或ハ豫算ノ上等ニ於キマ
シテモ、出來ルダケノ費用ヲ計上シテ、此
ノ當面ノ急ニ應ジ、國民ノ信賴ニ背カナ
ヤウニ致シタイ、斯様ニ考ヘテ居ル、大體
ノ精神ニ於テハ質問者ノ御精神ト何等變ツ
テ居ルコトハナイコトヲ申上げテ置キマス
○小笠原委員 只今ノ御答辯ニ依リマシテ
軍ノ方ノ軍馬ト致シマシテモ、亦國民ノ食
糧資源ノ確保ノ上ニ於キマシテモ、馬ハ最
モ重要デアルトノ御答辯ガアツタノデ、
如何ニモ吾々モ其ノ通りデアルトハ想
像シテ居ルノデアリマス、只今農林大臣
ハ質問者ト少シモ變ルコトハナイ、馬ニ
對シマシテハ相當重視シテ居ルト云フコ
トニ付テ、色々ノ點カラ御説明ガアツタノ
デアリマスガ、サウ云フ御説明ハ此ノ前ノ
大臣カラモ、軍部ノ方カラモ何時デモ承ル
譯ナノデアリマス、私ノ伺ハウトスルノ
ハ、ソレ程鐵砲、大砲ノ如キ兵器ト同様ニ
重用視シテ居ルモノデアル、又食糧ノ資源
確保ノ上ニ重要ナモノデアツタナラバ、馬
ヲシテ、其ノ製造業者ニ損ノナイヤウニト
ニ相違ナインデアリマス、鐵砲、大砲ナラ
バ鐵ハ幾ラ高クナツテモ、ソレダケノ供給
資源ノ確保ト云フモノハ、相當重大ナモノ
手當ヲシテ居ルコトヲ吾々ハ窺ハレル、殷
賑產業ノ方ハ菴ツ葉服ヲ着タ職工マデ、押

對シマシテハ、モウ軍部デモ經濟的ニ農村ノ馬生産、殊ニ軍馬生産ニ對シテハ、相當ナ犠牲ヲ拂ツテ居ルコトハ、四年前ニ於テ前ノ吉田馬政局次長ガ認メタ、又今年ノ兵務局長閣下ノ帝國馬匹協會ニ於キマスル講コトヲ認メ、政府モチャント斯ウ云フ風ナ演ニ依リマシテモ、軍馬購買ト云フコトニ對シテハ、非常ニ大キナ犠牲ヲ拂ツテ居ルコトヲ認メ、政府モチャント斯ウ云フ風ナ犠牲ヲ認メテ居ツタ、ソレガ急激ニ飼料ガ三倍ニ暴騰シテ居ルコトニ對シテ、殊ニ又人件費デアリマスガ、是ハ限リアルモノニ對シテ、今山ノ奥マデ電力ノ事業トカ飛行場ノ設備其ノ他軍需工業ナドガ設立ニナリマシテ、金デ争ツテ人夫ヲ雇入レテ居ルヤウナ狀況デアリマスカラ、馬ノ牧夫ナドハ三倍、五倍ニナツテ居ル、ソレデモ雇入レルコトガ出來ナイデ、仕方ナク馬ヲ手放シテ居ルヤウナ狀況デアルノデアリマス、殊ニ此ノ馬資源ノ確保ニ付キマシテハ、御承知ノ通り農村ノ方デハ馬ノ法律ガ三百六十八條モアルヤウナコトヲ誰モ少シモ承知シテ居ナイ、皆部落ノ有力者ガ指導シテ、政府ノ方針ニ副フヤウニヤツテ居ルノデアリマス、其ノ有力者ハ今日ノ經濟的ノ打撃ニ對シテ、算盤ニ明ルイモノデアルカラ、早クサツサト馬ヲ止メテ、三頭持ツテ居ル者ハ二頭ニ、二頭ノ者ハ一頭ニ、一頭ノ者ハ飼料ノ掛ラナイ駄馬ヘ移リ、ソレカラ牛ヘ乗替ヘツツアルノデアリマス、ナゼ是ガ聲ヲ大ニシナイカト云フト、是マデ農村ニ軍馬ヲ生産セイト云フノデ、官民競ウテ獎勵ト云フノデ馬ノ生産ニト聲ヲ掛けテ、今日マデヤツテ來タノデアリマスガ、ソレガ斯

二頭ト減頭シテ居ルヤウナ今日ノ實情ハ、
決シテ軍ノ作戦ノ方面カラ言ツテモ、資源
確保ノ上カラ言ツテモ、政府ノ方デ見逃シ
テハナラヌノデアル、殊ニ重要ナ濃厚飼料ガ
大暴騰ヲシタ今日ニ於テ、同ジ價格デ生産
シテ來イト言ツテモ——是ガドウモ遺憾ダ
遺憾ダト云フヤウナ御言葉バカリアツテ
モ、實際ハ生産出來ルヤウニ仕向ケテ行カ
ナケレバ馬ガ出來ルモノデハナイ、斯ウ私
ハ考ヘテ居ル、殊ニ軍ノ要求スル、或ハ又
農林省デ計畫ヲ立テ新馬政計畫ニ基ク所
ノ體幅骨量ニ富ム馬ヲ生産セヨト云フ、只
今ノ軍務局長サンカラモ骨量體幅ニ乏シイ
モノガアル云々ト云フ御話ガアリマシタ
ガ、サウ言フ軍ガ只今要求スルヤウナ馬ヲ
生産スルニハ相當ノ條件ガナケレバナラヌ、
ソレニハヤハリ種ト云フモノガ必要デアル、
配給シナケレバナラヌ種ヲ配給セズシテ、
馬ダケ良いノヲ出セト言ツタツテ逆モ出来
ル譯ハナイ、然ルニ今日ノ種馬ヲ配給フ状況
ヲ見マシテモ、農林省ノ方デ誤ツタ政策ヲ
多年今日マデ執ツテ來タノデアリマス、ナ
ゼナラバ農林省ノ資料ニ現ハレタ所ノ種馬
ハ、年々改良發達シテ良質ナモノヲ生産シ
テ居ルト云フコトハ、年々政府ノ方カラ承
諾仕方ヲシテ居ルカト云フト、十年モ二十
年モ前ノ白米一升十錢デ買ヘタ頃ハ三千
圓、三千五百圓デ馬ヲ買ツテ居ル、ソレガ
ノヲ、種馬トシテ購買スル時ニドンナ購賣

云フ傾向ニアルノデアリマスカラ、ドウシタツテ今日ハ急速ニ原料ノ高クナツタモノニ手當ヲシテ、サウシテ馬産ヲ經濟的ニ伴フヤウニ仕向ケテ行クコトガ必要デ、ソレガ目下ノ急務デアル、兵器ト見ラレル軍馬資源ノ確保ガ重要ダトスレバ、其ノ對策ハ今日ニ於テ何カシナケレバナラス筈ダ、此ノ對策ガナケレバアナタ方ハ馬ノコトニ對シテ無關心デ、ソレハ其ノ場限リノ御警戒ニ過ギナイト云フコトニナル、ダカラ農林省トカ、又陸軍トシテハ軍馬資源ノ確保トカ何カノ對策ガ出來テ居ラナケレバナラヌ筈ダトスウ思フノデアリマシテ、若シ今出來テ居ラヌナラバ、近キ機會ニドウ云フ對策ヲシテ此ノ資源ノ確保ヲスルカ、斯ウ云フコトヲ伺ヒタインデアリマス

テ協力ヲ求メタ、隨テ軍馬ヲ選定スルモノノ
ニ對シテハ誰シモ競争セズシテ、豫算ノ儘
ノ自由ニ購買サレテ今日マデ來タノデアリ
マス、是ハ活キタ兵器供給ノ農村ノ美德ノ現
ハレデアル、ソレデ今日マデ來タ、ソレヲ今
度ハ普通ノ價格デソレガ充足サレテ居ルト
云フコトデ、實際ヲ見透フセズシテ、豫算ハ
此ノ通リデ宜イノダト云フ、經理關係デ抑ヘ
テ行クナラバ、ヤハリ理窟デ、馬ハ生産費
ガ伴ハナイカラ止ヌマセウト云フコトニナ
ラナケレバナラナクナツテシマフノデス、
此ノ點モ十分御研究ニナツテ、軍ノ方デ斯
ウ云フ講演ヲシナガラ、少シモヤツテ吳レヌ、
此ノ儘デハドウニモナリマセヌカラ、大藏
省デモ此ノ點ニ付テハ篤ト御考ヲ願ハナケ
レバナラヌカラ、軍ノ方ト御相談ヲナサレ、
ソレカラ農林省ト連絡ヲ取ツテ、急速ニ然
ルベキ對策ヲ取ツテ戴キタイ、先づ私ハ農
林大臣竝ニ陸軍ノ方カラ、今日ノ物價騰貴
ニ對シテ、如何ナル對策ヲ執ツテ居ラレル
カ、ソレヲ伺ヒタイ

口デバカリデ行ハヌト、云フコトモ、ソレハ
言ヘバアルデセウ、又小笠原君自身モ、サ
ウ云フコトヲ言ハレルケレドモ、ヤハリ實
情ガドウ云フモノデアルカト云フコトハ、
一方ニ於テハ見テ居ラレルト思ヒマスガ、
今回ノ此ノ大キナ事變、戰爭ノ結果、多數
ノ内地ノ馬ガ大陸ニ行ツテ活動シテ居ル其
ノ實驗ト云フコトモアリマスシ、戰爭ニ付
テ如何ニ機械化ノ武器ガ用ヒラレルト致シ
マシテモ、ヤハリ陸上ノ戰爭ニ於テハ軍馬
ト云フモノノ必要ガアルト云フコトハ、是
ハモウ疑ノナイヨトデアリ、一層此ノ點ニ
重キヲ置イテヤラナケレバナラヌト云フコ
トハ、是ハ認メラレテ居ルコトハ、只今ノ
御話ニモアツタヤウナ次第デアリマス、ト
同時ニ是等ノ資源ノ確保ヲスルト云フコト
ニ付テハ、ドウシテモ是ハ農家ガ其ノ大部
分ヲ擔當シテ行カナケレバナラヌ、斯ウ云
フコトモアルノデアリマスカラ、此ノ點ニ
付キマシテハ自分モ一ツ大イニ踏込ンデ、
關係ノ方面ト話ヲ致シマシテ、之ニ對スル
根本的ノ對策ヲ立テテ、是等ノ憂ヲ除クヤ
ウニ努力致シタイト思フ、殊ニ種馬ノ問題
ニ付テ、只今御話ノヤウナ點ハ、私モ其ノ
遺憾ノ點ヲ認メテ居リマス、居リマスガ是
マデハ今申上ゲルヤウニ財政ノ關係等モア
リマシテ、隨分窮屈ニナツテ居ル結果、御
質問ノヤウナ點ガアルノデアリマスガ、今
日ハ啻ニ軍部方面ニ於テ早クソレヲ認メテ
居ツタト云フバカリデハナイ、一般ノ國民
トシテモ馬ノ改良、馬產資源ノ確保ト云フ
コトニ付テ、種馬ノ關係ガ非常ニ重キヲ爲
シ、全體トシテモツト國民ノ馬ニ關スル思
想ガ徹底シテ、此ノ方面ノ事柄ヲモツト徹
底底ニ解決ヲシテ行クノ途ニ出デナケレバ

ナラヌト云フコトハ、今日ハ大體徹底的ニ
分ツテ來タト考ヘマスカラ、斯様ナ機會ニ
於キマシテ自分モ努力ヲシテサウシテ此ノ
問題ニ對シテ、一ツノ段階ヲ付ケルヤウナ
進展方ヲ致サセタイト考ヘテ居リマス、之ニ
付テ關係當局、詰リ軍バカリデハアリマセ
ヌ、大藏方面ニ於テモ、十分考ヲ同ジウシ
テ貰ハナケレバナラヌコトデアリマスケレ
ドモ、急速ニ今日明日ト云フコトハ無論出
來ナイコトデアリマスガ、此ノ趣意ニ依ツ
テ私ハ努力ヲスル、斯ウ云フコトダケヲ此
ノ際御答トシテ申上ゲテ置キマス

○武藤政府委員　軍馬資源ノ確保ニ付キマ
シテハ、申スマデモナク非常ナ關心ヲ持ツ
テ居ル次第ゴザイマシテ、是ガ爲ニハ軍
ノ購買價格ト云フヤウナモノモ、成ベク高
ク致シタイト云フコトハ無論念願スル所デ
ゴザイマス、今次事變ニナリマシテカラ、
逐次ニ馬ノ値段ガ一般的ニ騰貴シテ來マシ
タノデ、軍ト致シマシテモ之ニ追隨シテ、
購買價格ヲ逐次上げテハ來タノゴザイマ
スルガ、先程カラ縷々御説明ノ如ク、急速ニ
勞務關係若クハ飼料關係カラ、馬ノ價格ノ
騰貴スル儘ニ軍馬ノ購買價格ト一般ノ價格
トノ間ニ「ギャップ」ガ出來テ來マスノデ、軍
トシテモ決シテ怠ケテ居ルノデハナイノデ
ゴザイマス、一生懸命引上ニ付テハ努力ヲ
シテ居ルノデゴザイマスガ、中々サウイカ
ナイノデゴザイマスノデ、其ノ點ハ御諒承
願ハナケレバナラヌト思ヒマス、又飼料ニ
付キマシテモ軍ノ力ノ及ブ限り満洲等カラ
コチラニ輸入致シマス等、目下セイド、交
渉中デゴザイマスカラ、ソレダケ御答申上
ゲテ置キマス

局カラ御話ガアリマシタカラ、私カラ特別ニ申上げル必要ハナイト思ヒマスガ、馬ノ國防上、產業上重要ナルコドハ申スマデモナイコトデアリマス、隨テ馬ニ關スル政府ノ歳出等ニ付キマシテモ、十分大藏當局トシテハ農林當局陸軍當局ト打合セテヤツテ居ル次第デアリマシテ、昭和十五年度豫算ヲ見マシテモ、十四年度豫算ニ比シテ約千二百万圓ヲ増加シテ居ル、斯ウ云フヤウナ譯デアリマス、軍馬資源ノ保護施設、或ハ種馬所ノ事業費或ハ馬事振興費等ヘ、相當額前年度ニ比較シテ増加シテ居ルヤウナ次第デアリマス、只今小笠原君ノ述べラレマシタアリマス、軍馬購入ニ付テ、武藤軍務局長カラ御答ガアリマシタヤウニ、十四年度ニハ相當前年度ニ比シテ、購入價格等モ引上げタ豫算ヲ決メタト云フヤウナコトヲ聽いて居ル次第デアリマシテ、小笠原君ノ申サレマシタ御趣旨ハ、淘ニ御尤モデアツテ、此ノ馬產ガ經濟的ニ引合フヤウナ方法デ、軍馬購入等ヲナサルト云フコトハ、私モ信ジテ居ルヤウナ次第デアリマス、

デアルト考ヘル、是ハ資源ノ確保ノ點カラモ相當ニ考ヘナケレバナラスト思フノデアリマス、農村ノ方デモ今日ハ先刻モ申上ゲタ通リ澤山ノ兵隊ガ應召シテ居リマス、馬モ澤山徵發サレテ居リマス、其ノ上ニ馬ノ生産ヲスルノニ、農產物ノ總テノ收入ヲ之ニ注ギ込マナケレバナラスト云フ理窟ハ何處ニアルカ、片方ノ兵器ノ方デハ大キナ物ハ飛行機、軍艦カラ、小サナ物ハ輪ヲ一つ持ヘル職人マデ相當大キナ收入ガアルノニ、馬ノ方ダケハ何年間モ繼續シテ責任ヲ負擔セシメテ、今日此ノ大暴騰ニ對シテモ對策ハ更ニ立て居ラレナイ、是ハ今日ハ相當考ヘナケレバナラスト思フノデアリマスガ、大臣ハ今日、明日トハ言ハレスケレドモ、近キ中ニト言ハレルカラ、必ズ議會中ニハ何トカナサルモノト私ハ信ジテ居リマスガ、之ヲ何トカセンケレバドウニモナリマセヌ、ドウカ其ノ點宜シク御願致シマスソレカラ軍馬ノ方ノ御答辯ヲ伺ツタノデアリマスガ、吾々モ軍馬購買價格ニ對シテハ相當ニ頑張ツテ居ルケレドモ、ドウシテモ實行ガ出來ナイデ困ツテ居ルカラ諒承シテ貰ヒタイト云フコトデスガ、ソンナコトハ諒承ハ出來マセヌ、出來ナケレバ皆廢マテシマウ、ダカラサウ云フコトデナク、何ト力資源ノ確保ニ努メテ貰ヒタイト思フ、私ハズット數字的ニ値段モ調べテ持ツテ來テ居リマスガ、ソレハ午後ニ伺フコトニシテ、先ヅ大臣カラ御答辯ヲ願ヒタイコトヲ更ニ御伺シマスガ、吾々馬生産者ノ方ニ於キマシテハ、此ノ時局デアルカラ物ノ不足デアルト云フコトハ相當我慢モシナケレバナラヌシ、又自ラモ研究ヲシテ經濟的ニ立直シテシナケレバナラヌコトハ勿論デアリマス

ガ、唯國內ハ食糧問題ニ對シテ、最モ重點
ノ置カナケレバナラヌ此ノ場合デアリマス
カラ、其ノ原料タル肥料ニ對シマシテハ、
今日議會ニ於テモ大キナ議論トナツテ居
リ、賴リ過ギタト云フ傾向ガアルノデハナイ
カト考ヘテ居リマスガ、自給肥料ノ研究ニ
依ツテ、之ヲ補フコトヲ政府ノ方デハ金肥ニ餘
指道獎勵ヲセンケレバナラヌト、私ハ思フ
ノデアリマス、畜産家方面ニ於テモ、相當
ノ厩肥ヲ作ツテ居ルケレドモ、尙ホ一般ニ
金肥ノ方ニ賴リ過ギテ居ルノデアリマス、
是ハ從來政府ノ指導ガヤハリ金肥ニ重キヲ
置イテ、其ノ方ニ傾イタ弊害モ伴ツテ居ル
ト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソコデ政
府ノ軍馬ノ補充部方面デモ、農林省ノ種馬
所方面デモ、ヤハリ金肥ガ配給サレナイモ
ノデスカラ、厩肥ト云フモノニ對シテ自ラ研
究ヲヤリ始メテ居ル所ガ諸所ニアル、サウ
シテソレガ成功シテ居ラレル、馬ノ衛生其ノ
他ノコトモ共ニ考ヘル時ニ、厩肥ノ構造ハヤ
ハリ土臺ヲ「コンクリート」ニシテ糞ハ糞、尿
ハ尿ト區分スルヤウニ溜所ヲ設置致シマシテ、
サウシテソレガ簡単ニ二ツニ分レテ流込ム
ヤウニ裝置ヲシテ居ル所ハ、厩肥トシテモ
非常ニ成功ヲシテ居リマス、殊ニ濃厚飼料
ヲ動物ノ肚ヲ通シタ否トニ依ツテ、其ノ
肥料ノ良否ハ非常ニ大キナ幅ヲ持ツテ居ル
ノデアリマス、斯ウ云フコトハ種馬所、軍
馬補充部研究ヲシテ、廣ク農家ノ方ニ肥
料價值ヲ宣傳シ、又此ノ研究ニ對シテハ民
間ニ助成シテ、サウシテ肥料價值ヲ經濟化
スルト云フコトニ急速ノ指導ブシテ、濃厚
飼料ガ非常ニ要ルガ、馬ノ肥料ハ相當ノ價
値ノアルモノダト云フコトヲ示スコトガ、

目下ノ急務デアルト考ヘルノデアリマスガ、農林省ノ方デハ馬政局ニ行ツテモ、肥料ノ方ニハ關係ガナイモノダカラ中々同意ハシテモソコニ入ツテ行カナイ、肥料關係ノ方ニ行ツテモ中々頭ニ入ラナイ、併シ此ノ方針ハ非常ニ重要デ、急イデ案ヲ立テテ此ノ指導研究ト云フ方面ニ出發ナサルト云フコトガ、目下ノ肥料問題ニ對シテモ、又食糧問題ニ對シテモ根本問題デアルト考ヘルノデアリマス、其ノ對策ヲ何カ立テ居ラレルカ、今後立テル御考ガアルカト云フコトヲ伺ツテ置キタイ

○島田國務大臣 自給肥料ヲ確保スル、斯ウ云フコトニ付キマシテハ本年ノ豫算ニ於テモ、此ノ農作物ノ増産計畫ノ中ニ於テ、殊ニ肥料對策ノ上ニ相當ノ豫算ヲ計上シテ、自給肥料ヲ只今ノ御話ノヤウナ方面ニ向ツテ進メタイトト思フノデアリマス、御話ノヤウニ金肥ト云フモノハ、殊ニ無機質ノ肥料ト云フモノニ對シマシテハ、是ガ便利デアリ、效能ガ適切デアルカラ、使ヒ始メルトソレヲ使ヒタガルト云フ傾向ノアルト云フコトハ認ヌテ居ル、隨テ年々無機質ノ肥料ノ方ニ向ツテ之ヲ使フ量ガ多クナツテ行クノデアリマス、實際烟ニシテモ田ニ致シマシンコトハ認ヌテ居ルケレドモ、中々容易デナイ、此ノ點御諒承願ヒタイトト云フ御答辯デアツタノデアリマスガ、其ノ意味ガ私ニドウモ分ラヌノデ、豫算ヲ取ルニ努メテ居ルケレドモ、又生産者ノ方ノ犠牲ヲ拂ツテ居ルコトモ之ヲ認ヌルケレドモ、豫算ガ取レスノダカラ、是ヲ我慢セイト云フヤウナ意味ノヤウニモ聞エル、又今ノ所ハ已ムヲクトイコトガ、永遠ノ策デアルトイコトハ、是ハ大體誰モ異存ナイ所デアリマス、テ來ル、自給肥料ハ之ヲ作ル時ニ非常ニ手數ガ掛ル、斯ウ云フコトカラ自然ニ易キニ就クト云フ傾向ノアルコトハ、是ハ將來ノ問題ニ容易デアル、サウシテ增産ガ目ノ前ニ見エシテ考ヘナケレバナラヌ、隨テ今ノ馬ニ付

キマシテモ、厩舎ノ構造ヲ變ヘテ、サウシテ厩肥ガ有效ニ取レルヤウニスルト云フヤウニコトハ、極メテ適切ナ案ダト思ヒマスカラ、此ノ點ハ小笠原サンノ言ハレマスヤウニ、私ハ農林省ノ責任者トシテ、各部局ニ對シテ此ノ方針ヲ以テ指導シテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○小林委員長 暫時休憩致シマシテ、午後二時カラ引續イテ開會致シマス

午後零時十三分休憩

午後二時十分開議

○小林委員長 開會致シマス

○小笠原委員 午前中ニ農林大臣カラ馬資源ノ確保ニ付テ、急激ニ何カ之ヲ手當ヲシナケレバナラスト云フ御答辯モアリマシタノデ、續イテ軍馬ノ方ノ購買ニ對シマシテ、先刻軍務局長サンカラ大變御努力ナサレテ居ルケレドモ、中々容易デナイ、此ノ點御諒承願ヒタイトト云フ御答辯デアツタノデアリマスガ、其ノ意味ガ私ニドウモ分ラヌノデ、豫算ヲ取ルニ努メテ居ルケレドモ、又生産者ノ方ノ犠牲ヲ拂ツテ居ルコトモ之ヲ認ヌルケレドモ、豫算ガ取レスノダカラ、是ヲ我慢セイト云フヤウナ意味ノヤウニモ聞エル、又今ノ所ハ已ムヲクトイコトガ、永遠ノ策デアルトイコトハ、是ハ大體誰モ異存ナイ所デアリマス、テ來ル、自給肥料ハ之ヲ作ル時ニ非常ニ手數ガ掛ル、斯ウ云フコトカラ自然ニ易キニ就クト云フ傾向ノアルコトハ、是ハ將來ノ問題ニ容易デアル、サウシテ增産ガ目ノ前ニ見エシテ考ヘナケレバナラヌ、隨テ今ノ馬ニ付

實際今年ハドウ云フ風ニ取扱フカト云フコト此處ニ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス、○福富説明員 軍馬購買價格ヲ上ゲルト云フコトニ付キマシテハ、午前ニ軍務局長カラ御説明ガアツタ通リデゴザイマシテ、此ノ事變ニナリマシテカラ、資料トシテ差上干下ツテ居ルノデゴザイマスガ、是ハ各種ノ關係ガアツテ已ムヲ得ナイト思ヒマシタノデ、本年度ノ實績ニ鑑ミマシテ來年度ニ於キマシテハ幼駒ノ購買、牡馬ノ購買ニ於キマシテモ、相當程度ノ價格ヲ上ゲマシテ、購買ノ容易ニ努メルト云フ風ニ考ヘテ居リマス、尙ホ目下考ヘテ居リマスル價格ニ於テ、決シテ十分トハ考ヘテ居リマセヌノデ、之ヲ更ニ向上致シマシテ一般國民ニ負担ヲ掛けナイト云フコトニ付キマシテハ、一層努力ヲスル考デゴザイマス

○小笠原委員 此ノ陸軍ノ方ノ購買價格ノ表ヲ見マシテモ、逐次増額シテ居ルコトガ表レテ居リマスルガ、一面ニ於テ販賣スル方ノ事情カラ比較シマスルト、僅カバカリ増額シテ居ルニモ拘ラズ、實際賣ツタ所ヲ比例シテ見ルト、是ハ青森縣一縣ノ例デアリマスガ、三年前ニハ普通ノ馬ノ平均價格ヨリ、軍馬ノ購買價格ハ百十圓高カツタノデアリマス、二年前ニハ五十幾圓、更ニ昨年ニ至リマシテハ僅ニ十四圓シカ高クナイトヨリ、軍馬ノ購買價格ハ百十圓高カツタノデアリマスガ、二年後ニハ六十幾圓、更ニ昨年ニ至リマシテハ僅ニ十四圓シカ高クナイトヨリ高イト云フコトハ、普通馬ヨリ軍馬ガシテハ、國防上非常ニ關係ガアリマスノデ、

是ハ十分私共竝ニ關係當局トモ連絡ヲ致シマシテ、誤リノサイコトヲ期シタイト存ジテ居リマス、軍ニ於キマシテモ最モ關係ヲ持ツテ居リマスノハ、軍馬購買價格デアリマスガ、是ハ先程モ申シマシタガ、昨年ノ實績ニ微シテ、慎重検討致シマシテ、購買方法ナリ、或ハ價格ニ付キマシテハ、昨年ニ比シテ相當ノ變革ヲ加ヘテアル次第アリマス、具體的ノコトハ今一寸申上ゲルコトヲ憚カル次第アリマス。

○小笠原委員 一體軍馬購買ノ選定ト云フノハ、御承知ノ通り全國ノ生產馬ノ中デ、一部ノ競馬ト其ノ他種牡馬ヲ選定シタ以外ノハ、全國ノ生產馬ノ最モ優良ナルモノヲ軍馬トシテ選定スルノデアリマシテ、斯ウ云フ優秀馬ヲ生產スルニハ、前ニモ申上ゲタ通リ第一配合カラ受胎當時ノ母馬ノ養育、並ニ受胎當時ノ母馬ニ對スル一割以上ノ濃厚飼料ノ増額、ソレカラ尙ホ乳ヲ呑ンデ居向ヲ與ヘタ、所ガ一昨々年アタリカラ、ソロソロ斯ウ云フ購買價格ト云フモノハ、五圓ナリ十圓ナリ普通ヨリ低下シタ、ソレデモ博勞ニ賣ルヨリハ、軍馬トシテ供給スル方ヲ名譽トシテヤツテ來タノデアリマス、ソレガ更ニ昨年度ニ至リマシテ、隣ノヘル場合ニハ六割ノ増額、生産馬ニ對シテハ放牧五箇月ヲ除イタアトノ一二箇月ト云フ、マダ相當發育能率ノ旺盛ナ時ヲ逸セズシテ、之ニ對シテ十分ナ濃厚飼料ノ手當ヲシナケレバ、軍ノ要求スル所ノ體幅骨量ニ富ム馬ヲ市場ニ出スコトハ出來ヌノデアリマス、サウ云フコトヲ原則トシテ、一定ノ條件ノ下ニ農民ニ生産セシムベク要求シテ置イテ、サウシテ生産スル爲ノ絶對ニ必要ナルモノハ飼料デアツテ、其ノ飼料ノ價格ガドウデアル、人件費ガドウデアルト云フコトヲ計算シテ見ル直グニ今日ノ狀況カラシテ、軍馬ノ購買價格ト云フモノガ適正デナイト云フコトハ、計算出來ル筈デアル、ソレヲ計算シテ見ルト今日軍デ考ヘテ居ルヤウナ、從來ノモノニ對シテ是位手當シタラ巧ク行クグラウト

云フヤウナコトニハ中々出來ヌノデアリマス、一體軍馬ヲ生產スルト云フコトハ、一ノ農村ノ名譽トシテ今日マデヤツテ來タ、サウシテ自分ノ方ニ生產馬ガアルト、是ガ軍馬ニ行クカ行カナイカト云フコトガ、村ノ話題ニナツテ、是ハ必ズ行クノダト云ツテ競争シテ居ツタノデアリマス、是ガ市場ニ現ハレテ軍馬御用ノ聲ヲ聞ク時ニハ、出征軍人ヲ送ルヤウニ拍手喝采シテ之ヲ送ルト云フコトハ、アナタ方モ能ク御承知ノ通りデアル、然ルニソレガ從來ナラバ百圓ナリ、或ハ二百圓ナリ、或ハ五十圓普通馬ヨリ高カツタカラ、斯ウ云フモノハ軍馬トシテ適當デアルト云フコトモ、其ノ購買ニ依ツテ方針ヲ示サレル、又努力シタ效果モ現ハレルト云フヤウナコトデ、非常ニ好イ傾向ヲ與ヘタ、所ガ一昨々年アタリカラ、ソロソロ斯ウ云フ購買價格ト云フモノハ、五圓ナリ十圓ナリ普通ヨリ低下シタ、ソレデモ博勞ニ賣ルヨリハ、軍馬トシテ供給スル方ヲ名譽トシテヤツテ來タノデアリマス、ソレガ更ニ昨年度ニ至リマシテ、隣ノヘル場合ニハ六割ノ増額、生産馬ニ對シテハ放牧五箇月ヲ除イタアトノ一二箇月ト云フ、マダ相當發育能率ノ旺盛ナ時ヲ逸セズシテ、之ニ對シテ十分ナ濃厚飼料ノ手當ヲシナケレバ、軍ノ要求スル所ノ體幅骨量ニ富ム馬ヲ市場ニ出スコトハ出來ヌノデアリマス、サウ云フコトヲ原則トシテ、一定ノ條件ノ下ニ農民ニ生産セシムベク要求シテ置イテ、サウシテ生産スル爲ノ絶對ニ必要ナルモノハ飼料デアツテ、其ノ飼料ノ價格ガドウデアル、人件費ガドウデアルト云フコトヲ計算シテ見ル直グニ今日ノ狀況カラシテ、軍馬ノ購買價格ト云フモノガ適正デナイト云フコトハ、計算出來ル筈デアル、ソレヲ計算シテ見ルト今日軍デ考ヘテ居ルヤウナ、從來ノモノニ對シテ是位手當シタラ巧ク行クグラウト

激ナ諸物價ノ暴騰ニ依ツテ、愈々以テ指導スル方面カラシテ、先刻申上ゲタ經濟知識ノアル連中ガ段々ニ馬ヲ値切ルヤウナ傾向ガアルノデアリマスカラ、軍馬ト云フモノノ購買價格ハ、アナタ方ノ方デハ祕密カモ知レヌガ、ソレ程マデニ思ヒ切ツテ何トカ對策ヲ立テヨウト云フ考ヲ持チマシタナラバ、資源ヲ確保スル意味ニ於テモ、ドレ位昨年ヨリ購買價格ヲ上ゲルノダト云フコトヲ示シテ、サウシテ軍馬ノ生產者モ安心シテ、軍デモ今度ハ奮發ヲヤルサウダ、農林省モ斯ウ云フ風ニスルサウダ、ソレ故吾々モ馬ヲ放スマイト云フ決心ヲセシメテ、サウシテ安心ノ上ニ生產馬ニ努力ヲセシムルコトニ努力シタ方ガ宜イヤウニ思ヒマス、何モ彼モ祕密々々デハ、農村ハ迷ヒヲ生ズルノデアリマス、祕密モ何カノ爲ニナルノデアリマセウガ、其ノ中ニ馬ガ無クナツテシマツタラ何ニモナラヌコトニナルノデアリマス、何カノ方法ニ依ツテアナタ方軍ノ方デモ、馬政局ノ方デモ、馬產ニ對シテ相當ナ力ヲ入レナケレバナラヌコト云フコトニナルノデアリマス、現在ノ豫算カラ見マシテモ、軍人ノ方デハ大キナ豫算ヲ大藏省ニ要求シテ取ラレテ居ル、併シナガラ使途ヲ見ルト、多クハ軍用保護馬デ取ラレテ、生產馬ニ力ヲ入レテ居ラレナシ、生產馬ニ力ヲ入レ、重キヲ置イタノダト云フノハロバカリデ、豫算ノ上デハ少シモ力ヲ御入レニナツテ居ラナハ組合當事者トシテ、軍馬ヲ生產シタ部落ニハ、優勝旗ヲ與ヘテ獎勵モシ、個人ニ對シテハ木杯モ與ヘテ獎勵シタ、併シ今デハ文ノ値打モナイ今日ノ現状ニナツテ居ル、ソレデモ色々ナ方法デ抑ヘテ來タノヲ、急對シテ是位手當シタラ巧ク行クグラウト

〔委員長退席、坪山委員長代理著席〕

同ジ兵器ダ、其ノ資源ニ對シテノ重大責任
ハアナタ方ニアルノデアリマスカラ、是ハ
陸軍大臣デモ軍務局長デモ、兵務局長デモ、
ドナタデモ宜シウゴザイマスカラ、首腦部
ノ方ニ答辯ヲシテ戴キタイ、決シテアナタ
ノ答辯ガ間違ツテ居ルトカ、責任ガナイト
カ云フヤウナモノデハアリマゼヌガ、少ク
トモ首腦部ノ答辯ヲ戴クコトハ、生産地方
民ニ非常ニ大キニ影響ガアルノデアリマス
ルガ故ニ、私ハ申上ゲルノデアリマス、御
出席ガナノハ、多分重要ナ要件ノ任務を
アラレルヤウニ御察シ申上ゲマスガ、ドナ
タカ首腦部ノ方ニ責任ヲ以テ御答辯ナサレ
テ、同時ニ本當ニ確保ヲスル爲ニ何トカ至
急ニ對策ヲ立テラレ、又生産地ノ動搖シテ
居ルノヲ防止スル方面ニ努力シテ貴ヒタイ
ト思フノデアリマス

○福富説明員 軍務局長ハ一時カラ參謀本

部ニ會議ガゴザイマシテ、今一寸何時頃マ

デ掛ルカ不明瞭デアリマスカラ、後カラ研

究シテ申上ゲマス

○小笠原委員 馬ノ生産ニ對シテ最重要

ナル關係ノアル種牡馬ノ價格ニ對スル農林

省ノ方ニ出サレタ表ヲ見ルト、先刻大臣ニ

申シタ通り、年一年ト良馬ニ對シテ價格ヲ

低下セシメテ購買シテ居ル狀況デアル、其

ノ點ニ付テ遺憾ノ意ヲ申シタ所、大臣モ之

ニ對シ自分モ非常ニ遺憾ト思ツテ居ルカ

ル者ハ相當大キニ犠牲ヲ拂ツテ居ル、此ノ

犠牲ヲ補フコトヲ今年シナケレバ、明年ノ

種馬購買ニ大キニ缺陷ガアルシ、又良質ノ

考カドウカ、斯ウ云フコトデス

馬ヲ生産スル氣ニナレヌ、斯ウ云フコトガ
考ヘラレルカラ、丁度大臣ノ答辯モアリマ
シタカラ、馬政局長官ハ之ヲ實際問題トシ
テ、今年カラ其ノ對策ヲ立テル御意思ガア
ルカドウカ、ソレヲ御伺致シテ置キタイ
ノ方ニ答辯ヲシテ戴キタイ、決シテアナタ
ノ答辯ガ間違ツテ居ルトカ、責任ガナイト
カ云フヤウナモノデハアリマゼヌガ、少ク
トモ首腦部ノ答辯ヲ戴クコトハ、生産地方
民ニ非常ニ大キニ影響ガアルノデアリマス
ルガ故ニ、私ハ申上ゲルノデアリマス、御
出席ガナノハ、多分重要ナ要件ノ任務を
アラレルヤウニ御察シ申上ゲマスガ、ドナ
タカ首腦部ノ方ニ責任ヲ以テ御答辯ナサレ
テ、同時ニ本當ニ確保ヲスル爲ニ何トカ至
急ニ對策ヲ立テラレ、又生産地ノ動搖シテ
居ルノヲ防止スル方面ニ努力シテ貴ヒタイ
ト思フノデアリマス

○村上政府委員 種馬購買方法ハ今年度ハ

昨年度ヨリハ少シ違ヘテ見タイト思ヒマス、

購買官等ニ付キマシテモ、少シ前ヨリ違ヘ

テ責任ヲ以テ購買致サセタイ、又良馬ニ付

テハ價格相當ノ金ヲ出スコトハ至當ト思ヒ

マス、ソレ等ノ點モ十分考究シテ見タイト

思ヒマス

○小笠原委員 私ノ申スノハ、其ノ御答辯

モ御尤モデアルガ、特ニ豫算ノ上デ豫備金

ノ支出ヲ仰グトカ何トカ方法ヲ講ジテ貴ヒ

タイ、追加豫算ニハ遲レタカモ知レナイケレ

ドモ、餘リ大シタ金額デハナイガ、生産、馬

質改善ト云フコトニ對シテ影響スル所ガ非

常ニ大キイノデアル、大キニ資源ニ對シテ

影響ノアル此ノ問題ノ解決ヲ付ケルニハ、

今アル所ノ豫算ノヤリ繰ヲ私ハ伺フノデヤ

ナクテ、何カ豫算ノ上ニ於テ對策ヲ立テ、

他ノ方カラ廻ストカ、或ハ豫備金ノ方ヲ考

ヘテ貴フトカ、大臣ノ答辯ダツテ、内輪ノ

關係ノヤリ繰デヤルコトハ、ソンナニ幅ガ

小格輓馬ダト思ツテ買ハウト思ツテ行ツテ

見ルト、指定表ガ輓馬ダ、ダカラ買ハレナイ、

ソコデ馬ニ依ツテデナク検査シタ指定ノ紙

一枚ニ依リマシテ、生産馬ノ勤ギ取レナ

イヤウナ今日ノ狀況デアル、是ハ馬政局ノ

實際ノ任ニ當ツテ居ル課長サン方ニ僕ハ話

シタ所ガ、ドウモソレデ全ク吾々モ困ツテ

トニ對シテ、豫算面デ何カノ方法ヲ執ラレ

タ馬デモ小サイ馬ヲ配合スレバ、中庸ヲ得

タ馬ガ出來ル、又小格輓馬同士ノ配合ダツ

テ、必ズジモ小格輓馬ガ出來ルモノデハナ

○村上政府委員 追加豫算ヲ出スコトハモ

ウ困難ト思ヒマスガ、尙ほ等是ノコトニ付

テハ十分研究シテ見タイト思ヒマス

○小笠原委員 農林省ノ方ニ馬體ノ指定ヲ

シタカラ、馬政局長官ハ之ヲ實際問題トシ

テ、今年カラ其ノ對策ヲ立テル御意思ガア

ルカドウカ、ソレヲ御伺致シテ置キタイ

ルカドウカ、ソレヲ御尋スルノハ

無理カモ知レスケレドモ、是ハ御答辯ハナ

クテモ弊害ガ大キイコトダケヲ申上ゲテ、

御参考ニ供シテ置カナケレバ、ナラス問題ガ

デアリマス、是ハ一寸長官ニ御尋スルノハ

無理カモ知レスケレドモ、是ハ御答辯ハナ

幅ハ取レナイデ、實際地方ニ迷惑ヲシテ居ル

者ガ非常ニアルノデアリマス、是モ生產ニ當

コトニシテ置クナラバ馬ノ配合ニ依ツテ中間種

ニ變ヘテ行カウト思ツタ所デ、ドウシテモアノ

幅ハ取レナイデ、實際地方ニ迷惑ヲシテ居ル

○土田委員 一寸關聯シテ……只今小笠原委員ノ質問ノ中デ「ベルジョン」ノ入ツタノハ、非常ニ結果ニ於テ惡い、只今秋田縣ガ認メラレテ居ルト申サレマシタケレドモ、秋田縣ハ既ニ二十年此ノ方、此ノ「ベルシリコン」ノ鰥養ヲ嚴禁シテ居ルヤウナ狀況デアリマス、殊ニ體幅ガアツテモ、運動機能ノ方ノ部門ニ於テ完備シテ居ラナイ、唯見レバ「ペルシリコン」ノ如ク體幅ガアリ、背モアルト申サレマシテモ、馬ノ運動機能ノ上カラ見マスト、胸ノ周圍ガ非常ニ狭イ、心臓ガ丁度二歳ノ「サラブレット」ダケシカナイ、腱ノ發育ハ「サラブレット」ノ半分ニモナラナイ、斯ウ云フ風ニ見テハ太イケレド

○村上政府委員 只今ノ小笠原サンノ御訴
ハ、極メテ専門的ナ御話デアリマシテ、私
十分ニ答ヘル資格ガゴザイマセヌガ、「ペル
シロン」系統ノモノハ、是ハ北海道以外
ハ、内地ニ於テハ生産ヲ獎勵シナイ方針ニ
變リハナイト云フコトニナツテ居リマス、
事實ソレガ入ツテ居ルトスレバ、ソレハ一
寸ヲカシイヤウニ思ヒマスガ、尙ホ其ノ點
ハ十分取調べタイト思ヒマス

○小笠原委員 法ノ上ニ於テハ、今度ハ
「ペルシロン」ハ北海道ニ限ル、斯ウナツテ
居リマスガ、私ノ申上ゲルノハソレデハナ
イ、「ペルシロン」ノ二割ダケ入ツタモノ
ハ、内地ニ寄越シテモ宜シイト云フ方針ヲ
執ツテ居ラレル、ソレガ一番困ル、ソレガ
ナイトカアルトカ云フ議論ニナレバ、北海
道ノ馬デ昨年内地ニ配合シタモノハ「ペル
シロン」ノ血液ノ入ツタモノガ多數デ、殆
ド全部配合シテアリマスカラ、ソレヲ見
バ一番能クリマス、ソレガ私ハ困ルト
思ヒマス、ソレガ實際ト違フノデアリマ
ス——ソレハ今御研究ニナラヌデモ、此處
デ論議ノ問題トシテ申上ゲルノデハナイノ
デス、實際問題デサウ云フコトガ現ハレテ
居リマスカラ、實際ニ當ツテ居ラレル方々
カラ承レバ直グ分リマスカラ、其ノ方面ヲ
篤ト研究セラレテ、今後ニ骨量トカ何ト
カト云フコトデナシニ、若シ「ペルシロン」
ノ血液ガ内地ニ入ラヌヤウニシナルト云フナ
ラバ、本當ニ入ラヌヤウニシナケレバイケ
ナイト云フコトヲ申上ゲマシテ、其ノ點ハ
後デ御研究ヲ願ヒマス

次ハ牧野ノコトニ付テ御尋シマスガ、今
度相當大キク國有林ヲ開放スルヤウニ承ツ
テ居ルノデアリマス、唯此ノ牧野ノ今後ノ

○小笠原委

方針トシテハ、相當ニ牧野ヲ維持スル爲ニ
指導員ヲ助成スル、或ハ又派遣スルト云
方針ニナツテ居ルコトヲ承ツテ居ルノデア
リマス、此ノ牧野ヲ改良スルトカ、指導ス
ルトカ云フノハ、ドウ云フ人ガ一體牧野ノ
改良指導ノ任ニ當ルノデアルカ、全國ノ牧
野ニ對シテ配置スルダケノ人間ガ、日本ニ
アリマスカドウカ、其ノ點ヲ私ハ先づ承リ
タノイデアリマス

○村上政府委員 適當ナ牧野ノ指導員ヲ得
ルコトハ、是ハ今ノ情勢ニ於テハ稍因難ナ
所ガアラウト思ヒマス、ソコデ此ノ度ノ豫
算ニ於キマシテモ、斯ウ云フ指導者ノ講習
費ヲ取ツタリシテ、適當ナ技術講習ヲ致シ
タイト考ヘテ居リマス、ソレニ依ツテ一面ニ
ハ是ハ養成シテ行キタイト思ツテ居リマス、
牧野ノ技術者ト云フノハ是ハ獸醫師デイケ
ズ、ソレカト言ツテ農家出身ノ人デハイケ
ズ、ヤハリ特殊ノ人デアリマスカラ、特殊
ノ養成ヲシテ行ク必要ガアルト思ヒマス、
尙ホ其ノ養成ニ付テハ今度ノ豫算デモ十分
デナイノデ、是等ニ付テハ今後モ十分研究
シテ行キタイト思ヒマス

○小笠原委員 ソレハ養成スルト云フコト
ハ承リマシタガ、一體具體的ノ大キナ問題
デ「三點申セバ、ドウ云フコトヲ養成ナサ
ルノデセウカ、ソレハ私ハ餘程今長官ノ申
サレタ通り、獸醫師デモイカヌ、農家ノ方
面デモイカヌ、餘程問題ガ面倒ダト思フノ
デアリマス、ソコデ牛馬共ニ今度放牧スル
コトハドウ云フ影響ガアルカ、又今後トモ
馬ダケデナサル積リデアルカ、其ノ點モハ
ツキリシテ置カナケレバナラスト思ヒマス
ガ、從來開放シタ國有林野ノ成績ヲ見ルト、
至ツテ不成績デアル、アンナコトナラバ日

本ノ國土ニ於テドンナ開放モ恐ラクハ出來ハシマイト思フノデアリマス、一定數量ノ開放ヲ有效ニ利用スルヤウニ仕向ケルヤウデアリマス、隨テ年一年ト間断的ナ放牧ヲスルノモ一策デアラウシ、又馬ニ依ツテハ種馬モアリ、軍馬モアリ、輓馬モアリ、輕馬モアルト云フヤウナ譯デ色々種類ガアルシ、又價格ノ點モ違フノデアリマス、又牧野ニ依ツテソレヽ向キ不向キガ違フノデアリマス、サウ云フ所ノ區別デモナサル考デアリマスカ、指導ト言ツテモ色々ナ方面ガアリマセウガ、今マデノヤウナ唯抛り放シノ指導デアツテハ中々容易デハナイト思フノデアリマス、此ノ議會デモ問題ニナツタ農產物ノ検査員ナドモ、各府縣デ地元ノ事情ニ從ツテ各部落々ニ派遣シタノダガ、農學校ヲ卒業シテ來タ位デハ、幾ラ牧野ノ指導ヲ受ケテモ容易デアリマセヌ、サウ云フ農學校出ノ検査員ガ農村ニ行ツテ威張リクサツテ、燕麥ヲ見テ、是ハ何麥ダト言フ、是ハ燕麥ダト言フト是ガ燕麥カ……、検査員ハヤカマシイコトヲ言フケレドモ、燕麥ト大麥ノ區別モ分ラナイ、サウ云フ者ガ澤山居ル、ダカラ牧野ニシテモ三千尺以上ノ高イ所ニハドウ云フ牧草ガ適當カ、馬ハ何時カラ何時マデ放牧スルガ適當カ、アエ云フ空氣ノ良イ所ニドウ云フ草ガ適當デ、運動スル所

シマシタラ駄目デハナイカト云フコトデ大變怒ツテ居ラレルト云フガ、ソレハ山林局ガ貸シ放シダカライケナイ、牧野ヲ馬政ニ對シテ監督指導スル、山林局ハ唯貸シ放シテ見テ居ツテ、木ヲ傷メナケレバ宜イ

ト考ヘテ居ル、ダカラ牧野ハ拋リ放シデドウシテモ調和ガ執レナイ、ダカラ國有地ガ一番先ニ荒廢シタ、今後トモ下手ナコトヲヤツテ居ルト、幾ラ面積バカリ廣大ニ開放致シマシテモ、荒廢シテ一年デ駄目ニナツテシマフ、是ハ指導ニ當ル方モ、指導ヲ受ケル方モ實際問題ニ付テ研究ナサラナケレバ、机上ノ空論デハ通ラヌト私ハ思フノデアリマスガ、一體此ノ指導ニ當ル方ハドンナ方デスカ、農林省ノドノ方面ノ方ガ此ノ指導ノ任ニ當ルノデアリマセウカ

○村上政府委員 牧野ノ指導ニ當ル者ハ、農林省ト致シマシテハ馬政局ノ馬事課ニ於テ之ヲ指導スル、大體其ノ技術者ハ從來牧野ノ方デ相當経験ヲ持ツタ者ヲシテ之ニ當

トセマス、而シテ牧野ニ對シテ別ニ今特殊ノ合併ト云フ譯ニハイカヌノデゴザイマス、ソレデ從來各地方ノ牧野ニ於キマシテ相當部ノ各支部ニ御願スル豫定デゴザイマス、ソレカラモウツハ馬政局ノ種馬育成所ニ選ビマシテ、之ヲ養成シタイト考ヘテ居リマス、養成ノ場所ハ差當リ陸軍ノ軍馬補充部ノ各支部ニ御願スル豫定デゴザイマス、ソレカラモウツハ馬政局ノ種馬育成所ニ於テ修習サセル豫定デ、本年ノ六月初旬カト五箇月位ヲ豫定シマシテ修習サセタイト考ヘテ居リマス、其ノ結果ニ從ヒマシテ、此ノ中カラ優秀者ヲソレヽ各牧野ニ配屬サセタイ、斯ウ云フ段取デ致シテ居リマス

○小笠原委員 先刻申上ゲタ中ニ牛馬ノ混合放牧ニ對スル對策ト、又馬ニ對シテモ色色輕馬、輓馬、駄馬等ニ對シテ、分類シテ放牧スルヤウナ對策デモアラレルカト云フレバナラヌ、隨テ中々適任者ヲ得ルコトハサウ簡単ニハイカナイト思ヒマス

○小笠原委員 先刻申上ゲタ中ニ牛馬ノ混合放牧ニ對スル對策ト、又馬ニ對シテモ色色輕馬、輓馬、駄馬等ニ對シテ、分類シテ放牧スルヤウナ對策デモアラレルカト云フレバナラヌ、隨テ中カラ優秀者ヲソレヽ各牧野ニ配屬サセタイ、斯ウ云フ段取デ致シテ居リマス

○村上政府委員 北海道バカリニ限定シテ居リマセヌ、内地東北地方、九州地方等ニモ考ヘテ居リマス

○小笠原委員 牧野ノ放牧地ニ對シマスル所ノ衛生状態ニ付テ伺ヒタイノデアリマス、此ノ國營牧野ト云フモノヲ内地ニモ制定スル御考ハアリマスカ

○村上政府委員 分類シテ放牧スルト云フコトハ宜イコトダト思ヒマスガ、ソレマデコトハ放牧限定期地等ニ付キマジテモ、今度ハ前トハ違ヒマシテ、山林局ト馬政局ト十分ニ連絡ヲ取り、放牧限定期地等ニ付テハ、馬政ニ對シテ監督指導スル、山林局ハ唯貸シ放シテ見テ居ツテ、木ヲ傷メナケレバ宜イ

シマシタラ駄目デハナイカト云フコトデ大變怒ツテ居ラレルト云フガ、ソレハ山林局ガ貸シ放シダカライケナイ、牧野ヲ馬政ニ對シテ監督指導スル、山林局ハ唯貸シ放シテ見テ居ツテ、木ヲ傷メナケレバ宜イ

ト考ヘテ居ル、ダカラ牧野ハ拋リ放シデドウシテモ調和ガ執レナイ、ダカラ國有地ガ一番先ニ荒廢シタ、今後トモ下手ナコトヲヤツテ居ルト、幾ラ面積バカリ廣大ニ開放致シマシテモ、荒廢シテ一年デ駄目ニナツテシマフ、是ハ指導ニ當ル方モ、指導ヲ受

ケル方モ實際問題ニ付テ研究ナサラナケレバ、机上ノ空論デハ通ラヌト私ハ思フノデアリマスガ、一體此ノ指導ニ當ル方ハドンナ方デスカ、農林省ノドノ方面ノ方ガ此ノ指導ノ任ニ當ルノデアリマセウカ

○須政府委員 今度新ニ開放セラレル豫定ノ國有林野竝ニ國有未開地ノ貸付又ハ使

用ニ付キマシテ、其ノ技術上ノ重點ヲ成スモノハドウシテモ牧夫ダト考ヘマスガ、所謂牧場ノ管理者ノ養成ハ非常ニ急務デアリ

マス、先程長官カラモ申上ゲマシタ通リニ、云フコトヲ一寸申シマスト、牧夫ト云フモ

來年度ノ豫算ニ於テ養成費ヲ要求シテアリマス、ソレニドウ云フ風ナ計畫デ居ルカト云フコトヲ一寸申シマスト、牧夫ト云フモ

ノハ實ハ相當ノ經驗ヲ必要トシマスノデ、

マス、ソレニドウ云フ風ナ計畫デ居ルカト云フコトヲ一寸申シマスト、牧夫ト云フモ

隨ヒマシテ學校ヲ出タトカ云フ者デ直グ間ニ合フト云フ譯ニハイカヌノデゴザイマス、

ソレデ從來各地方ノ牧野ニ於キマシテ相當部ノ各支部ニ御願スル豫定デゴザイマス、

ソレカラモウツハ馬政局ノ種馬育成所ニ

選ビマシテ、之ヲ養成シタイト考ヘテ居リマス、養成ノ場所ハ差當リ陸軍ノ軍馬補充

部ノ各支部ニ御願スル豫定デゴザイマス、

ソレカラモウツハ馬政局ノ種馬育成所ニ

選ビマシテ、之ヲ養成シタイト考ヘテ居リマス、養成ノ場所ハ差當リ陸軍ノ軍馬補充

ニ助成ヲスル云々ト云フコトモアリマスガ、
是ハ放牧前トカ、放牧中ニ於キマス所ノ是
等ノ豫防施設ト云フモノヲ新ニ御考ニナラ
レテ居ルカドウカラ同ヒタイノデアリマス
○三須政府委員 放牧期間中ニ於キマシテ
傳貧ノ發生シタヤウナ場合ニ於キマシテハ、
是ハ検診ノ上ニ於テ直チニ之ヲ山カラ引下
シマシテ、隔離サセルコトニ致シテ居リマ
ス、ソレカラ今度新シク來年度カラ豫算ニ
於キマシテ、特ニ放牧地ニ於ケル衛生施設
ヲ充實スルト云フ新タナ豫算ハ特ニ取ツテ
居リマセヌガ、併シ今度ノ法案ノ通過シタ
後ニ於キマシテハ、牧野組合、其ノ他ノ組
合ノ施設スル牧野ニ付キマシテハ衛生施設
ヲ相當充實シナケレバナラヌコトノ規定ヲ
サレテ居リマス、ソレカラ又實際トシマシ
テ、府縣ノ方ノ牧野ノ指導官ニ依ツテ、放
牧期間中ニ於ケル放牧馬ノ検診ヲ絶エズシ
テ行クト云フコトニ指導シタイト思ツテ居
リマス、ソレガ爲ニハ必要ニ應ジマシテハ
嘱託ノ獸醫等ヲ配置スルコトモ指導シタイ
ト云フ考デ居リマス、ソレカラ尙ホ國營ノ
牧野ニ於キマシテハ、是等ノ施設ハ來年度
豫算ニ於テモ要求シテ居リマス、是ハ引續
キ實施出來ル次第アリマス
○小笠原委員 其ノ衛生施設ニ付テ大體方
針ハ分リマシタガ、ソレハ衛生課長サシノ
方ガ却テ御分リデセウガ、傳貧ガ發生シテ
居ルノデアリマシテ、アレヲ放牧前ニ體溫
其ノ他ノ關係デ能ク實際検査ヲシナケレバ、
ハ實際問題トシテハサウアルカモ知レヌガ、
何時マデ經ツテモ撲滅ハ不可能デアルトマ

デ申サレテ衛生課長サンノ方デ能ク御調ニナツ
テ、其ノ對策上ノ豫防ヲスル爲ニ、放牧前
ノ家畜ニ瓦ツテノ審査トカ云フモノノ御者
ヲナサレテ居ルカ、マダ手ガソコマデ届イ
テ居ラヌノデアリマスカ、ソレヲ一ツ御伺
シタイト思ヒマス

○三須政 府委員 放牧前ニ於キマシテモヤ
ハリ一應検診シマシテ、其ノ憂ナシト認メ
タモノヲ放牧スルコトニ致シテ居リマス、
ソレカラ放牧期間中ニ於キマシテモ暫時検
診ヲスル譯デアリマス、其ノ検診ヲシタ結
果ニ於キマシテ怪シイト認メタモノハ、是
ハヤハリ隔離スルコトニシテアリマス

○小笠原委員 山林局ノ方ニ御伺致シマス
ガ、園營ノ牧野トシテ開放シタ點ハ只今申
上ダタ通り殆ド全部ガ不成績デアリマス、
ソレハアナタ方ノ方デハ局ノ方デモ營林署
ノ方デモ皆遺憾ノ意ヲ表サレテ居ルノダガ、
其ノ點ハアナタ方ノ方ハ山林ト云フ方ニ重
キヲ置イテ、一旦其ノ方ノ監督ト云フコトニ
ナルト直接權利モナイヤウナコトデ、唯帶
廢シタ所ダケ攻撃シテモ、然ラバ改善スル
ノニ、一方カラ吾々モ自發的ニ、又政府ノ
方デモ指導スルト云フコトニ依ツテ之ヲ改
善シナケレバナラヌト云フコトハ尤モノコ
トデアリマスケレドモ、從來ノヤリ方ハ動
モスルト個人牧野ニ於テ牧野ノ管理機關ニ
當ツテ居ル連中デ、刈入ノ料金ノ納付サヘ
怠ツテ居ル、而モソレガ色々ナ牧野組合員
カラハ徵收シテアリナガラモ、サウ云フ不
成績ナモノガ三年ナリ五年ナリ續イテ居ル、
サウ云フモノニ限ツテ又牧野ガ非常ニ荒廢
シテ居ルト云フコトガアルノデアリマスガ、
今度ノ改正法ニ依ツテサウ云フ不成績ノモ

ノハ畜産組合トカ縣トカ、或ハ畜産組合ノ聯合會ノ方ニ管理ヲ移管シテ、サウシテ相當ナ助成ト共ニ、或ル所ニ依ツテハ、自分等ノ手持金ヲ以テ牧野ノ整備ヲシテ行カヌケレバ、何時マデ經ツテモアレハ駄目ナンデス、現在サウ云フ所ハ馬ヲ放牧シテモ、其ノ區域内ガ荒廢シテシマツタカラ、他ノ區域外ノ牧野トシテ開放シテ居ラヌ方ニ馬ガ居ナ行ツテ、實際ノ牧野ノ指定地ニハ馬ガ居ナイト云フ現狀デアルノデアリマスガ、アレヲ何時マデモアノ通リニ放置シテ置クト云フコトハ、洵ニ此ノ牧野ノヤカマシイ時ニ國家ノ爲ニ遺憾デアルト考ヘテ居リマスガ、アマ、云フモノハ管理替ラスルト云フコトヲ、馬政局ト連絡ヲ取ツテ斷行ナサル御意思ガアルカドウカ伺ヒタイ

ドモ、助成ガ豫算ニ盛ラレテアリマスガ、サウシテ之ヲ助成スル一方デハ、助成ヲ受ケル方デハ相當ニ負擔ガアル譯デス、政府レバナラヌ額ガドレ程ニ上ツテ居ルカト云フコトヲ承リタイ、ソレカラモウ一つハ牧野ヲ開放シタノハ宜イガ、其ノ境界ヲルノニ針金ヲ必要トスルノダガ、針金ガナイト云フコトヲ私ハ聞イテ居ル、針金ガナクシテ境界ガ定マラヌカラ牧野トシテ開放出来ナイト言ツテ、山林局ハ今年ハ拒ム積リカ、境界ガナイカラ何處へ行ツテモ宜イカラ突ツ放シテシマヘト云フ方針ヲ執ラレルリカ、ソレガ分ラナイデ實際ハ困ツテ居ルノデアリマスガ、其ノ點ハ如何ナル方針ヲ執ラレルノデアルカ

○田中政府委員 豫算ハ二分ノ一分擔ニナツテ居リマス、但シ牧野特定地等ニ付キマシテハモウ少シ厚キ補助ヲ致シタイ、三分ノ一位ノ補助ヲ致シタイト考ヘテ居リマス

○三須政府委員 牧野ニ對シマスル資材ノ問題デアリマスガ、事變下ニ於キマシテ資材ガ非常ニ不足シテ居ル現狀デゴザイマスカラシテ、出來ルグケ針金トカ、或ハ其ノ他ノ軍需資材ニ使ハレルヤウナモノヲ使ハズニヤル方法ヲ考ヘタイト思ツテ居リマス、唯士壘ノ問題ニ付キマシテモ今度ハ人手ノ問題ガ大分アリマス、場合ニ依リマスト云フト、人手ガ不足ダト云フコトモゴザイトスガ、是ハ出來ルダケ農閑期ヲ利用シテヤルガトニシタイト云フ從來ノ指導デゴザイマス、

ソレカラ立木ノ相當アル處ハ整理伐ヲ相當
ヤラナケレバナラヌノデアリマスガ、整理
伐ノ結果ニ依リマシテ木柵其ノ他ハ出來ル
場合ガゴザイマス、サウ云フ場合ハ出來ル
ダケ木柵ニシテ行キタイ、斯ウ云フ方針ヲ
執リタイト考ヘテ居リマス

○小笠原委員 今ノ部長サンノ御考ハ机上ノ空論デアツテ、實際問題トハ大キナ懸隔ガアル、ドウ云フコトカト言ヘバ、土壘ナドト仰シヤルガ、今國有牧野ヲ開放シテ居ル所ニハ土壘ニナル原料ガアリマセヌ、十里モ運バナクテハナラヌト云ノノデ、ソレハ費用ガ大シタモノデドウニモナリマセヌ、ソレカラ木柵ト申サレマスケレドモ、木柵モ薪炭材ニ困ツテ居ル時デ、ドンナ小サナ枝デモ薪炭ノ方ニ競ツテ運搬サレテ居ルノデアリマシテ、中々木柵デヤルト云フコトハ容易デナイ、ヤハリ是ハ針金デナクテハドウニモ出來マセヌ、サウ云フコトヲ御考ニナツテ居ルカ、實際問題トシテ柵ハ出來マセヌ、柵ハ出來ナクテモ兎ニ角放牧サヘ御許シニナレバ宜イガ、山林局長サン御許シニナリマスカ、柵ナシデ放牧出來ルカトイト思ヒマス

事變ニナリマシテカラ馬ノ價格ガ非常ニ騰貴シテ參リマシタノデ、逐次買上價格ヲ増額シテ參ツタコトハ、午前中ニ軍務局長カラモ御話ガアツタ通りデアリマシテ、既ニ御存ジノ通リト思ヒマス、併シナガラ最近ニ於ケル飼料ノ騰貴、其ノ他ノ關係デ生産費ガ著シク騰貴シテ參リ、又馬ノ需給ト云フ關係カラシテ軍馬ノ買付ニ付キマシテハ、今後相當困難ナ事情ガ起リツツアルコトモ能ク諒知シテ居リマスノデ、今後ノ軍馬ノ買付ニ關シマシテハ是等ノ事情ヲ十分考慮致シマシテ、尙ホ關係當局トモ連絡ヲ取リマシテ、此ノ購買價格ヲ適正ニスルコトニ付テ十分努力致シテ行キタイ考デゴザイマ

ト云フコトニ付キマシテハ、年々陳情ヲ申上ゲテ居ルノデアリマスケレドモ、更ニ御聽取りニナヌラ、昨年アダリハ一昨年ヨリモ低下シタト云フヤウナ状況デアリマス、其ノ原因ハ何處ニアルカト言ヘバ、軍ノ方ノ經理ニ當ツテ居ル方々ハ、購買スル頭數ガ軍ノ需要ヲ充足シ得ラレルダケノ購買ガ出來テ居ルノデアルカラ、何モ之ニ對シテ更ニ増額スル必要ハ認メナイト云フ理窟カラ之ヲ抑ヘラレテ居ルト云フ風ニモ承ツテ居リマス、又大藏省カラ豫算ヲ取ル上ニ於テ、他ノ兵器製作ニ對シテハ豫算ヲ抑ヘタノデハ到底兵器ノ製作ハ出來ナイガ、ナニサウ云フ關係カラ、他ノ兵器ノ爲ニ馬ト云馬ダケハ農家ノ方デ喧シク言ツテ來ナイ以上ハ資源ガ確保出來ルモノダト云フコトデ、サウ云フ關係カラ、他ノ兵器ノ爲ニ馬ト云フ兵器ノ方ハ犠牲ニナツテ居ルト云フコトヲ吾々ハ聞イテ居ルノデアリマス、如何ニモドウモ實際其ノ通リデハナイカト思フノ

マデノ軍馬購買ノ實情ヲ御調査ニナツタデナクテハ分ラヌノデアリマスケレドモ、實際此事變勃發シテ以來二三年ハ購買スルコトガ出來ナカツタノデアリマス、隨テ先刻モ申上ゲマンタガ、牛馬商デモ、組合嘗事者モ協力ヲ願ツテ、軍馬ノ選定ニ付テハ争ツテ貰ハナイト云フヤウナ希望ガアリマシタノデ、此ノ時局柄デモアルシ、皆ガ協力シテ軍馬ノ選定ニ對シテ競争ヲシテカツタノデアリマス、隨テソレガ頭數ダケレドモ、實際ハ充足シ得タノデアリマスケレドモ、實際カラ見マスト云フト、隣ノ者ト軍馬ヲ生産スル者ト争ツテ、軍馬ノ生産ヲ得ヨウトシテ居ツタ者ガ、隣ノ駄馬ヨリモ軍馬ノ方ガアリマス、安イト云フノデ非常ニ恥ヲ播イタト云フヤウナ今日ノ狀況ニナツテ居ルノデアリマス、實際理窟ニ於テハ公設市場デアルカラ、職手ニ皆ガ耀上ゲテ競争シテヤツカラ宜イデハナイカト云フヤウナ風ニモ言ハレマスケレドモ、サウ云フコトニナツタナラバ、軍馬購買ガ殆ド出來ナイ、之ヲ又抑ヘ付ケ置イテ買フト云フコトニナルト、生産者ガ馬ノ生産ヲ止メヨウト云フコトニナルノデアリマス、非常ニ危險ナ狀態デ今日マデ進ンデ來タノデアリマス、一年カ二年ナラ軍馬生産者ノ方モ此ノ時局ニ鑑ミマシテ、如何ナル犠牲モ拂ツテ軍馬ノ生産ニ御努メシヨウト云フコトモ出來マスケレドモ、昨年カラノヤウニ何倍モ暴騰シタト云フヤウナ場合ニ於テハ、ヤハリ軍ノ方デモ相當ニ兵器トシテ重要視シテ居ル以上ハ、他ノ兵器製作ト同ジヤウニ考ヘテ、農村ノ古モ考ヘテ戴カナケレバ本當ニ困ルノデアリマス、ソレガ又今年ノ軍馬ノ購買ニ於

ノ價格デ軍馬ヲ購買スルト云フコトニナリ
マスト、生産者ハ殆ド軍馬生産ヲ逃ゲ
他ニ轉向スル、モウ其ノ準備ヲシテ居ル
ノデスカラ、サウナラナイ前ニ何トカシタ
イト云フコトヲ考ヘルノデアリマス、其ノ點
ハ能ク今ノ實際問題ヲ研究シテ戴キタイ、
農村ノ此ノ問題ハ軍ニ居ラレル方々モ調査
ガ行届イテ居ラレナインデハアリマセヌ
カ、私ハ現在購買ニ當ツテ居ラレル或ル軍
人ノ方ニモ色々スウ云フコトヲ申上ゲタ、
是デハ軍馬資源ガ涸渴シテモ、ソレハ私等
ノ責任デハナイ、ソレハ寧ロ軍ノ責任デアリマ
リマスカラ、是程申上ゲテモ吾々ノ希望ヲ
容レラレナイヤウデハ困ルト云フコトマデ
申上ゲタ所ガ、憤然トシテ起ツテ、憤慨シ
テ居ルヤウナ態度ヲ執ツテ居ル、實際分ナ
ナイノデス、分ラナインデ憤慨シテ居ツテ
モ、戰ニモナツタナラ寶實際御困リニナ
ルノデス、是ハ本當ニ因ルノデアリマスカラ
、篤ト研究シテ戴カナイト因リマスガ、
是ハ來年ノ問題トカ、再來年ノ問題デハナ
イ、今急激ニ暴騰シテ來タノダカラ、急速
ニ此ノ暴騰ノ手當ヲ考ヘナケレバイカス、
斯ウ思フノデアリマシテ、斯ウ云フ點ハ大
臣ニ本當ニ必要アルカナイカト云フコトノ
御答辯モ仰ギタカツタノデアリマスルケレ
ドモ、今日ハ御見エニナラナイト云フコト
デアリマスカラ、ドウカ御出席ノ二人ノ方
カラ能ク御傳ヘラ願ツテ、此ノ對策ヲ誤ラ
ゼルヤウニシテ、サウシテ資源ノ確保ノ出
來ルヤウニ御願シタノデアリマス、軍馬
ノ方ニ對シマシテハ、細カイコトハ澤山有
リマス、又大キイコトモアリマスレドモ、
大臣モ御出席ナイト云フカラ此ノ邊デ打切

ヨリモ寧ロ保安林ニシナケレバナラヌト云
フヤウナ所モアリマス、斯様ナ次第デアリ
マシテ、牧野ノ利用ニ付テハ未ダ十分ニナ
ツテ居リマセヌ、隨テ草生利用等モ甚ダ乏
シヤウナ状態デアリマスノデ、是等ノモ
ノハ今後次第ニ改良シテ行キ、十分狭イ面積
ノ牧野ヲ其ノ效用ヲ發揮セシムルヤウニ致
シテ行カナケレバナラスト思ヒマス

○深澤委員 現在ノ利用不十分ノ土地ニ對
スル牧野モ、十分ヤツテ行クト云フ御趣旨
ノ程ハ能ク分リマシタ、第二ニ私ハ勅令事
項ノ方カラ同ヒマスガ、第二條ノ二ノ勅令
事項デゴザイマスガ「土地ノ讓渡又ハ使用
収益ノ權利ノ設定若ヘ譲渡ニ關スル協議ヲ
爲スコトヲ得ル土地ハ御料地タリシ土地ニ
在リテハ明治三十一年一月十三日、國有地
タリシ土地中北海道ニ在リテハ明治三十年
四月一日、内地ニ在リテハ明治三十年十二
月二十五日以後ニ於テ民有ト爲リタルモノ
トスル見込ナリ」此ノ御見込アリマスガ、
私ハ地方ニ於キマシテ放牧計畫ヲ一度シタ
コトガアリマスガ、斯ウ云フ實例ニブツカ
ツタノデアリマス、一團地ガ三百町歩或ハ
四百町歩云フ所ヲ牧場ニスル場合ニ、其
ノ中ニ點在地ガアルノデアリマシテ、其ノ
爲ニ私ノ計畫シタコトハ失敗ニ終リマシタ
ガ、何故日限ヲ付ケタカ、此ノ點カラ一ツ
伺ヒマス

○村上政府委員 是ハ其ノ所有ノ原因ガハ
ツキリ致シマセヌト、果シテソレガ元國有
地デアツタカドウカト云フコトモ不明瞭デ
アル、ソコデ其ノ處分法規ガ明確ニナツク
時カラ之ヲ決メテ行キタイ、斯ウ云フ意味
ニ於キマシテ、北海道ニ於テハ舊法ノ北海
道國有未開地處分法ガ明治三十年ニ公布ニ
フヤウナ所モアリマス、斯様ナ次第デアリ
マシテ、牧野ノ利用ニ付テハ未ダ十分ニナ
ツテ居リマセヌ、隨テ草生利用等モ甚ダ乏
シヤウナ状態デアリマスノデ、是等ノモ
ノハ今後次第ニ改良シテ行キ、十分狭イ面積
ノ牧野ヲ其ノ效用ヲ發揮セシムルヤウニ致
シテ行カナケレバナラスト思ヒマス

○深澤委員 現在ノ利用不十分ノ土地ニ對
スル牧野モ、十分ヤツテ行クト云フ御趣旨
ノ程ハ能ク分リマシタ、第二ニ私ハ勅令事
項ノ方カラ同ヒマスガ、第二條ノ二ノ勅令
事項デゴザイマスガ「土地ノ讓渡又ハ使用
収益ノ權利ノ設定若ヘ譲渡ニ關スル協議ヲ
爲スコトヲ得ル土地ハ御料地タリシ土地ニ
在リテハ明治三十一年一月十三日、國有地
タリシ土地中北海道ニ在リテハ明治三十年
四月一日、内地ニ在リテハ明治三十年十二
月二十五日以後ニ於テ民有ト爲リタルモノ
トスル見込ナリ」此ノ御見込アリマスガ、
私ハ地方ニ於キマシテ放牧計畫ヲ一度シタ
コトガアリマスガ、斯ウ云フ實例ニブツカ
ツタノデアリマス、一團地ガ三百町歩或ハ
四百町歩云フ所ヲ牧場ニスル場合ニ、其
ノ中ニ點在地ガアルノデアリマシテ、其ノ
爲ニ私ノ計畫シタコトハ失敗ニ終リマシタ
ガ、何故日限ヲ付ケタカ、此ノ點カラ一ツ
伺ヒマス

○村上政府委員 是ハ其ノ所有ノ原因ガハ
ツキリ致シマセヌト、果シテソレガ元國有
地デアツタカドウカト云フコトモ不明瞭デ
アル、ソコデ其ノ處分法規ガ明確ニナツク
時カラ之ヲ決メテ行キタイ、斯ウ云フ意味
ニ於キマシテ、北海道ニ於テハ舊法ノ北海
道國有未開地處分法ガ明治三十年ニ公布ニ
フヤウナ所モアリマス、斯様ナ次第デアリ
マシテ、牧野ノ利用ニ付テハ未ダ十分ニナ
ツテ居リマセヌ、隨テ草生利用等モ甚ダ乏
シヤウナ状態デアリマスノデ、是等ノモ
ノハ今後次第ニ改良シテ行キ、十分狭イ面積
ノ牧野ヲ其ノ效用ヲ發揮セシムルヤウニ致
シテ行カナケレバナラスト思ヒマス

○深澤委員 現在ノ利用不十分ノ土地ニ對
スル牧野モ、十分ヤツテ行クト云フ御趣旨
ノ程ハ能ク分リマシタ、第二ニ私ハ勅令事
項ノ方カラ同ヒマスガ、第二條ノ二ノ勅令
事項デゴザイマスガ「土地ノ讓渡又ハ使用
収益ノ權利ノ設定若ヘ譲渡ニ關スル協議ヲ
爲スコトヲ得ル土地ハ御料地タリシ土地ニ
在リテハ明治三十一年一月十三日、國有地
タリシ土地中北海道ニ在リテハ明治三十年
四月一日、内地ニ在リテハ明治三十年十二
月二十五日以後ニ於テ民有ト爲リタルモノ
トスル見込ナリ」此ノ御見込アリマスガ、
私ハ地方ニ於キマシテ放牧計畫ヲ一度シタ
コトガアリマスガ、斯ウ云フ實例ニブツカ
ツタノデアリマス、一團地ガ三百町歩或ハ
四百町歩云フ所ヲ牧場ニスル場合ニ、其
ノ中ニ點在地ガアルノデアリマシテ、其ノ
爲ニ私ノ計畫シタコトハ失敗ニ終リマシタ
ガ、何故日限ヲ付ケタカ、此ノ點カラ一ツ
伺ヒマス

○深澤委員 現在ノ利用不十分ノ土地ニ對
スル牧野モ、十分ヤツテ行クト云フ御趣旨
ノ程ハ能ク分リマシタ、第二ニ私ハ勅令事
項ノ方カラ同ヒマスガ、第二條ノ二ノ勅令
事項デゴザイマスガ「土地ノ讓渡又ハ使用
収益ノ權利ノ設定若ヘ譲渡ニ關スル協議ヲ
爲スコトヲ得ル土地ハ御料地タリシ土地ニ
在リテハ明治三十一年一月十三日、國有地
タリシ土地中北海道ニ在リテハ明治三十年
四月一日、内地ニ在リテハ明治三十年十二
月二十五日以後ニ於テ民有ト爲リタルモノ
トスル見込ナリ」此ノ御見込アリマスガ、
私ハ地方ニ於キマシテ放牧計畫ヲ一度シタ
コトガアリマスガ、斯ウ云フ實例ニブツカ
ツタノデアリマス、一團地ガ三百町歩或ハ
四百町歩云フ所ヲ牧場ニスル場合ニ、其
ノ中ニ點在地ガアルノデアリマシテ、其ノ
爲ニ私ノ計畫シタコトハ失敗ニ終リマシタ
ガ、何故日限ヲ付ケタカ、此ノ點カラ一ツ
伺ヒマス

○深澤委員 現在ノ利用不十分ノ土地ニ對
スル牧野モ、十分ヤツテ行クト云フ御趣旨
ノ程ハ能ク分リマシタ、第二ニ私ハ勅令事
項ノ方カラ同ヒマスガ、第二條ノ二ノ勅令
事項デゴザイマスガ「土地ノ讓渡又ハ使用
収益ノ權利ノ設定若ヘ譲渡ニ關スル協議ヲ
爲スコトヲ得ル土地ハ御料地タリシ土地ニ
在リテハ明治三十一年一月十三日、國有地
タリシ土地中北海道ニ在リテハ明治三十年
四月一日、内地ニ在リテハ明治三十年十二
月二十五日以後ニ於テ民有ト爲リタルモノ
トスル見込ナリ」此ノ御見込アリマスガ、
私ハ地方ニ於キマシテ放牧計畫ヲ一度シタ
コトガアリマスガ、斯ウ云フ實例ニブツカ
ツタノデアリマス、一團地ガ三百町歩或ハ
四百町歩云フ所ヲ牧場ニスル場合ニ、其
ノ中ニ點在地ガアルノデアリマシテ、其ノ
爲ニ私ノ計畫シタコトハ失敗ニ終リマシタ
ガ、何故日限ヲ付ケタカ、此ノ點カラ一ツ
伺ヒマス

○深澤委員 現在ノ利用不十分ノ土地ニ對
スル牧野モ、十分ヤツテ行クト云フ御趣旨
ノ程ハ能ク分リマシタ、第二ニ私ハ勅令事
項ノ方カラ同ヒマスガ、第二條ノ二ノ勅令
事項デゴザイマスガ「土地ノ讓渡又ハ使用
収益ノ權利ノ設定若ヘ譲渡ニ關スル協議ヲ
爲スコトヲ得ル土地ハ御料地タリシ土地ニ
在リテハ明治三十一年一月十三日、國有地
タリシ土地中北海道ニ在リテハ明治三十年
四月一日、内地ニ在リテハ明治三十年十二
月二十五日以後ニ於テ民有ト爲リタルモノ
トスル見込ナリ」此ノ御見込アリマスガ、
私ハ地方ニ於キマシテ放牧計畫ヲ一度シタ
コトガアリマスガ、斯ウ云フ實例ニブツカ
ツタノデアリマス、一團地ガ三百町歩或ハ
四百町歩云フ所ヲ牧場ニスル場合ニ、其
ノ中ニ點在地ガアルノデアリマシテ、其ノ
爲ニ私ノ計畫シタコトハ失敗ニ終リマシタ
ガ、何故日限ヲ付ケタカ、此ノ點カラ一ツ
伺ヒマス

○深澤委員 現在ノ利用不十分ノ土地ニ對
スル牧野モ、十分ヤツテ行クト云フ御趣旨
ノ程ハ能ク分リマシタ、第二ニ私ハ勅令事
項ノ方カラ同ヒマスガ、第二條ノ二ノ勅令
事項デゴザイマスガ「土地ノ讓渡又ハ使用
収益ノ權利ノ設定若ヘ譲渡ニ關スル協議ヲ
爲スコトヲ得ル土地ハ御料地タリシ土地ニ
在リテハ明治三十一年一月十三日、國有地
タリシ土地中北海道ニ在リテハ明治三十年
四月一日、内地ニ在リテハ明治三十年十二
月二十五日以後ニ於テ民有ト爲リタルモノ
トスル見込ナリ」此ノ御見込アリマスガ、
私ハ地方ニ於キマシテ放牧計畫ヲ一度シタ
コトガアリマスガ、斯ウ云フ實例ニブツカ
ツタノデアリマス、一團地ガ三百町歩或ハ
四百町歩云フ所ヲ牧場ニスル場合ニ、其
ノ中ニ點在地ガアルノデアリマシテ、其ノ
爲ニ私ノ計畫シタコトハ失敗ニ終リマシタ
ガ、何故日限ヲ付ケタカ、此ノ點カラ一ツ
伺ヒマス

所見ヲ御聽シタインデアリマスガ、北海道ニ於キマシテハ國有未開地處分ガ、明治三十年四月一日以前ノ所有ニ歸シタ時マデ遡テヤルト云フ御意見ヲ、ハツキリ聽キタノデアリマス、北海道ニ對シマシテハ明治五年カラヤツテ居リマス——今一度言直シマスガ、明治三十年ト云フ年限ヲ切ラズニ、能ク事情ニ、現實カラ見テ是ハ適當ナリト云フ土地ガ澤山アリマス、モウ一園地ニ於テ數千町歩ト云フ土地ガ澤山アリマス、其處ニ施業スル場合ニハ——所謂其ノ牧野ヲ經營スル場合ニハ、年限ハ間ハナイト云フコトニ對スル御意見ヲ、ハツキリ聽イテ質問ヲ進メタイト思ヒマス。

○村上政府委員 是ハ一應明治三十年ト致シテ居リマスガ、今モ申上げマシタヤウニ、

今後研究致シマシテ、之ヲ明治五年ト致シテモ宜シトイ思ヒマス、尤モ明治五年ニ致

スト云フコトハ、年限ヲ切ラヌト云フコトト殆ド同ジゴザイマス、無期限ト云フコトニナルト、結局是ハ法規ノ體裁トシテ一寸ドウカト思ヒマスカラ、ソコハ明治五年ニ致スカモ知レマセヌ、是等ノ點ニ付キマシテハ、北海道ノ御希望ヲ十分容レマシテ、實際ニ副フヤウニ取計ツテ行キタイト思ヒマス

○深澤委員 非常ニハツキリシテ來マシタ、今一應諒イヤウデアリマスガ、私ハ北

海道ニ居リマシテ、能ク實情ニ通ジテ居リマスノデ、茲ニ私ノ狙イ所ガアルコトヲ申上ゲテ置キマスガ、現在此ノ事業ヲ行フ上ニ於テ支障ガアツテハナラヌ、國家ノ要求ヲ完全ニ果シテ行キタイト云フ見地カラ、年月ト云フ所謂有限的ノ年限ニ於テ施業ヲ

サレテハ困ル、收用法ヲハツキリ使フコト

モ、或ハ又其ノ土地ニ對シテ施業スル場合ニ於テ支障ガ出テ來ル、ダカラ現實ニ牧野ヲ經營スルニ適當ナ土地ニ對シテハ、明治三十

年ト云フ年限ヲ切ラズニ、能ク事情ニ、現實カラ見テ是ハ適當ナリト云フ土地ガ後

三十年ト云フ年限ヲ切ラズニ、能ク事情ヲ御調査ニナリマシテ、明治五年可ナリ、明治

或ハ十年モ可ナリ、要ハサウ云フ土地ガ後

年ニ實際施行處分サレルカト云フコトヲ能ク睨ミ合セテ事業施行ノ的確性ノ其ノ上ニ

此ノ年月ト云フモノヲ決メラレタイト云フコトヲ申上げテ、私ノ此ノ點ニ對スル質問

ハ打切りタイト思ヒマス

其ノ次ハ内地府縣ニアリマスガ、内地府

縣ニモ國有地或ハ又御料地ト申シマスカ、

其ノ土地ヲ獲得スル時ニ於ケル目的ガハツ

キリシテ居ルト思ヒマス、其ノ目的ニ副ハ

ナイ經營ヲシテ、現在ニ於テ利用不十分ノ

爲ニ、國家ノ福利、國家ノ需要ヲ充シ得ナイ

ト云フコトハ、一ツハ所有者ノ怠慢デアル、

又是ガ指導ニ缺クル所ガアルトモ言ヒ得ル

ノデアリマスガ、之ニ對スル御所見ヲ御伺

致シマス

○村上政府委員 其ノ點ハ北海道ト同様デ

寸ドウカト思ヒマスカラ、ソコハ明治五年ニ致スカモ知レマセヌ、是等ノ點ニ付キマ

シテハ、北海道ノ御希望ヲ十分容レマシテ、

實際ニ副フヤウニ取計ツテ行キタイト思ヒマス

○深澤委員 放牧地ニ對スル土性調査ノ御

研究ハドウデスカ

○村上政府委員 是ハ一部種馬牧場等ニ於

テ研究シテ居リマスガ、遺憾ナガラマダ全

國的ニ研究シタコトハゴザイマセヌ

○深澤委員 放牧地ニ於ケル野草ノ狀態ト、

馬體トノ關係ニ付テ一寸御伺シマス、其ノ

地方ニ於ケル野草ノ發生狀態、其ノ上ニ放

牧シタ馬ノ體ニ及ボシタ影響、ソレヲ一寸

御伺シタイ

○村上政府委員 抽象的ニ申シマスレバ、

野草ノ多イ所ニ放牧スレデ、馬ノ質ガ良ク

ナルトハ申シマスガ、マダ之ニ對スル科學

的ナ精緻ナ研究ハゴザイマセヌ

○深澤委員 日本ノ土地ハ大體ニ於テ酸性化シテ居ルト聞イテ居リマスガ、酸性土壤

ニ發生スル野草、牧草ヲ以テ、良キ馬、良

キ牛が出來ルカドウカト云フコトニ對スル

政府ノ御研究ノ御所見ヲ御伺シマス

○三須政府委員 御答申上げマス、御承

知ノ通りニ日本ノ土地ノ大部分ハ、酸性

ノ土壤デアルト云フコトハ、能ク言ハレ

テ居ル所デアリマス、隨ヒマシテ嚴格ナ

ル「ル」ル中心トシマス所ノ地方ガ牧野

地帶ト云フコトニナツテ居リマス、「アル

少イカト思ヒマス、併シ日本ノ國內ニ於

キマシテモ、石灰質ノ多イ所ハ非常ニ馬

ノノハ宣シイノデアリマシテ、サウ云フ

貴位ノ馬ヲ百二十日放牧スルト假定致シマ

シテ、其處ノ牧野ガ割合ニ草ガ良クナイ、

バ、馬一頭ニ當ツテ二町八反要リマス、併

シ是ハサウ云フ假定ノ下ニ計算シテ數字デ

ゴザイマスカラ、體量ニ依リ、目的ニ依リ、併

シノ土地ニ依ツテ色々違ツテ來ルト思ヒマ

ス

リ茲デ申上ゲル譯ニハ行キマセヌ、唯一ツ

ノ假定ヲ設ケテ申シマスレバ、先ヅ百十五

年ニ於テ支障ガ出テ來ル、ダカラ現實ニ牧野

ノ經營スルニ適當ナ土地ニ對シテハ、明治

或ハ十年モ可ナリ、要ハサウ云フ土地ガ後

年ニ實際施行處分サレルカト云フコトヲ能

ク睨ミ合セテ事業施行ノ的確性ノ其ノ上ニ

此ノ年月ト云フモノヲ決メラレタイト云フ

コトヲ申上げテ、私ノ此ノ點ニ對スル質問

ハ打切りタイト思ヒマス

其ノ次ハ内地府縣ニアリマスガ、内地府

縣ニモ國有地或ハ又御料地ト申シマスカ、

其ノ土地ヲ獲得スル時ニ於ケル目的ガハツ

キリシテ居ルト思ヒマス、其ノ目的ニ副ハ

ナイ經營ヲシテ、現在ニ於テ利用不十分ノ

爲ニ、國家ノ福利、國家ノ需要ヲ充シ得ナイ

ト云フコトハ、一ツハ所有者ノ怠慢デアル、

又是ガ指導ニ缺クル所ガアルトモ言ヒ得ル

ノデアリマスガ、之ニ對スル御所見ヲ御伺

致シマス

○深澤委員 放牧地ニ對スル土性調査ノ御

研究ハドウデスカ

○村上政府委員 是ハ一部種馬牧場等ニ於

テ研究シテ居リマスガ、遺憾ナガラマダ全

國的ニ研究シタコトハゴザイマセヌ

○深澤委員 放牧地ニ於ケル野草ノ狀態ト、

馬體トノ關係ニ付テ一寸御伺シマス、其ノ

地方ニ於ケル野草ノ發生狀態、其ノ上ニ放

牧シタ馬ノ體ニ及ボシタ影響、ソレヲ一寸

御伺シタイ

○村上政府委員 抽象的ニ申シマスレバ、

野草ノ多イ所ニ放牧スレデ、馬ノ質ガ良ク

ナルトハ申シマスガ、マダ之ニ對スル科學

的ナ精緻ナ研究ハゴザイマセヌ

○深澤委員 日本ノ土地ハ大體ニ於テ酸性

化シテ居ルト聞イテ居リマスガ、酸性土壤

ニ發生スル野草、牧草ヲ以テ、良キ馬、良

キ牛が出來ルカドウカト云フコトニ對スル

政府ノ御研究ノ御所見ヲ御伺シマス

○三須政府委員 御答申上げマス、御承

知ノ通りニ日本ノ土地ノ大部分ハ、酸性

ノ土壤デアルト云フコトハ、能ク言ハレ

テ居ル所デアリマス、隨ヒマシテ嚴格ナ

ル「ル」ル中心トシマス所ノ地方ガ牧野

地帶ト云フコトニナツテ居リマス、「アル

少イカト思ヒマス、併シ日本ノ國內ニ於

キマシテモ、石灰質ノ多イ所ハ非常ニ馬

ノノハ宣シイノデアリマシテ、サウ云フ

貴位ノ馬ヲ百二十日放牧スルト假定致シマ

シテ、其處ノ牧野ガ割合ニ草ガ良クナイ、

バ、馬一頭ニ當ツテ二町八反要リマス、併

シ是ハサウ云フ假定ノ下ニ計算シテ數字デ

ゴザイマスカラ、體量ニ依リ、目的ニ依リ、併

シノ土地ニ依ツテ色々違ツテ來ルト思ヒマ

ス

リ茲デ申上ゲル譯ニハ行キマセヌ、唯一ツ

ノ假定ヲ設ケテ申シマスレバ、先ヅ百十五

年ニ於テ支障ガ出テ來ル、ダカラ現實ニ牧野

ノ經營スルニ適當ナ土地ニ對シテハ、明治

或ハ十年モ可ナリ、要ハサウ云フ土地ガ後

年ニ實際施行處分サレルカト云フコトヲ能

ク睨ミ合セテ事業施行ノ的確性ノ其ノ上ニ

此ノ年月ト云フモノヲ決メラレタイト云フ

コトヲ申上げテ、私ノ此ノ點ニ對スル質問

ハ打切りタイト思ヒマス

其ノ次ハ内地府縣ニアリマスガ、内地府

縣ニモ國有地或ハ又御料地ト申シマスカ、

其ノ土地ヲ獲得スル時ニ於ケル目的ガハツ

キリシテ居ルト思ヒマス、其ノ目的ニ副ハ

ナイ經營ヲシテ、現在ニ於テ利用不十分ノ

爲ニ、國家ノ福利、國家ノ需要ヲ充シ得ナイ

ト云フコトハ、一ツハ所有者ノ怠慢デアル、

又是ガ指導ニ缺クル所ガアルトモ言ヒ得ル

ノデアリマスガ、之ニ對スル御所見ヲ御伺

致シマス

○深澤委員 放牧地ニ對スル土性調査ノ御

研究ハドウデスカ

○村上政府委員 是ハ一部種馬牧場等ニ於

テ研究シテ居リマスガ、遺憾ナガラマダ全

國的ニ研究シタコトハゴザイマセヌ

○深澤委員 放牧地ニ於ケル野草ノ狀態ト、

馬體トノ關係ニ付テ一寸御伺シマス、其ノ

地方ニ於ケル野草ノ發生狀態、其ノ上ニ放

牧シタ馬ノ體ニ及ボシタ影響、ソレヲ一寸

御伺シタイ

○村上政府委員 抽象的ニ申シマスレバ、

野草ノ多イ所ニ放牧スレデ、馬ノ質ガ良ク

ナルトハ申シマスガ、マダ之ニ對スル科學

的ナ精緻ナ研究ハゴザイマセヌ

○深澤委員 日本ノ土地ハ大體ニ於テ酸性

化シテ居ルト聞イテ居リマスガ、酸性土壤

ニ發生スル野草、牧草ヲ以テ、良キ馬、良

キ牛が出來ルカドウカト云フコトニ對スル

政府ノ御研究ノ御所見ヲ御伺シマス

○三須政府委員 御答申上げマス、御承

知ノ通りニ日本ノ土地ノ大部分ハ、酸性

ノ土壤デアルト云フコトハ、能ク言ハレ

テ居ル所デアリマス、隨ヒマシテ嚴格ナ

ル「ル」ル中心トシマス所ノ地方ガ牧野

地帶ト云フコトニナツテ居リマス、「アル

少イカト思ヒマス、併シ日本ノ國內ニ於

キマシテモ、石灰質ノ多イ所ハ非常ニ馬

ノノハ宣シイノデアリマシテ、サウ云フ

貴位ノ馬ヲ百二十日放牧スルト假定致シマ

シテ、其處ノ牧野ガ割合ニ草ガ良クナイ、

バ、馬一頭ニ當ツテ二町八反要リマス、併

シ是ハサウ云フ假定ノ下ニ計算シテ數字デ

ゴザイマスカラ、體量ニ依リ、目的ニ依リ、併

シノ土地ニ依ツテ色々違ツテ來ルト思ヒマ

ス

「又ハ「アルペ」ト云フヤウナ所ハ、實ハ放牧ト云フヤウナ意味ダト云フコトヲ承知シテ居リマス、ソレ程アノ地方ニ於テハ相當多イノデアリマス、約四百万町歩位ハアルカト思ヒマス、尤モ塊太利、佛蘭西ノ東部、瑞西、獨逸ノ「オーバーバイエルン」伊太利ノシテハ、約四百万町歩ト云フヤウナ地方ニ於キマドロミーイン」ト云フヤウナ地方ニ於キマ地帶デアル、是等ノ地帶ニ於キマシテハ大體ニ於テ高山野草ハ相當生エテ居リマス、又從來カラ相當手入ラシテ居リマス關係カラ良好ナモノガアルノデアリマス、唯土性其ノ他ニ付キマシテハマダ日本ト比較シタル具體的ナモノハアリマセヌ

○深澤委員 私ノ御伺スル主眼點ハ、向フ

ノ放牧ノ情勢モ無論アリマスガ、帝國ニ産スル在來ノ馬ト、彼等唯物論者タル白人種

ノ生産スル所ノ馬、其ノ馬ノ氣品、又能力、骨格、體質ト云フモノヲ見タ時ニ、吾々日

本人ガ世界ニ誇ル自尊心ニ對シテ非常ニ遺憾ニ思フ點ガアルノデアリマス、是ホド良

キ國民ガ、アノ白人ノ作ツタ馬、英吉利人

ノ作ツタ馬、又佛蘭西人ノ作ツタ馬、白耳

義人ノ作ツタ馬ヲ見タ時ニ、日本ノ馬ノ非

常ニ劣ツテ居ルコトヲ思フノハ甚ダ遺憾デ

アリマス、ソコデドウシテアノ馬方出來タ

カ、向フノ馬ト我馬ト比較シテ、彼ノ馬

ノ種ヲ持ツテ來テ今カラ改良スルト云フ此

ノ出發點デアリマス、此ノ出發點ガ土地ニ

モ關係シヨウ、又飼育者管理者ノ頭、家畜

ニ對スル觀念ト云フモノモ關係シマセウケ

レドモ、是ハ觀念ノ方面ト飼養管理ノ方面

及び自然條件ト云フモノヲ比較シテ見テ、我

國ニ未ダ良い馬ガ出マセヌノハ其ノ原因ガ

何處ニアツタカト云フ研究ノ結果ヲ握リタ

分ニ御叱リヲ受ケナケレバナラヌト思ヒマ

イ、馬ニ於テモ牛ニ於テモ雞ニ於テモ彼ニ負

ケナイ立派ナモノヲ作リタイ、日本ハ五穀ニ於

テ世界ニ冠タルモノデアルケレドモ、牛馬羊

雞ニ付テハ一步劣ツテ居リハセヌカ、斯ウ思

フノデアリマス、此ノ點ニ對シテアナタ方

ガ御研究ノ結果、ドウシダラ彼ニ優ル良イ

馬ヲ作り得ルカ、聞ク所ニ依レバ土性調査

モ十分デナイ、野草ノ分析試験モハツキリ

シタモノハナイト云フヤウナコトデハ逆モ

イカヌノデ、經費ハ當然出シテ、世界ニ冠

タル馬、世界ニ冠タル牛、世界ニ冠タル羊、

世界ニ冠タル雞ヲ一ツ作ル、家畜デ來イ、

農作穀物デ來イト云フ所マデ行キタイト云

フ念願ガアルカラ私ハ御聽キシテ居ルノデ

アリマス、此ノ點ニ對スル御所見ヲ伺ヒタ

イ

○村上政府委員 馬ノ改良ニ從事致シマシ

タノハ明治三十九年、日露戰爭ノ結果ニ基

キマシテ馬產ニ力ヲ入レルコトニナツタ譯

デアリマス、是ハ深澤サン御承知ノ通リニ、

日本ニ於ケル馬ノ資質ハ其ノ後著シク向上

致シテ參リマシタ次第デアリマス、唯馬產

ニ關スル所ノ經驗ハ、之ヲ歐羅巴諸國ニ比

べテ見マスト遙ニ短期間デアリマスノデ、

尙ホ現在ニ於テハ遺憾ナガラ莫吉利、佛蘭

西ト云フヤウナ所ト其ノ資質ニ於テ稍劣ル

所モアラウト思ヒマスガ、併シナガラ吾々

ノ意氣込ハ、日本ノ軍ニ適スル所ノ適格馬

優秀ナモノニ致サウ、斯ウ云フ心組デ實行

シヨウト思ツテ居リマス、尙ホ科學的ノ調

査ガマダナイト云フコトハ是ハ洵ニ私共ノ

遺憾ノ點デアリマシテ、此ノ點ニ付テハ十

分ニ御叱リヲ受ケナケレバナラヌト思ヒマ

スガ、是等ノ科學的研究機關ニ付キマシテ

ケナイ立派ナモノヲ作リタイ、日本ハ五穀ニ於

テ世界ニ冠タルモノニ付テ居リマスケレド

モ、近キ將來ニ於テ之ヲ設立致シマシテ、

テ世界ニ冠タルモノニ付テ居リマスケレド

モ、未ダ其ノ成績ヲ發表スルマデニ至ツテ

居リマセヌ

○深澤委員 私ハ今ノ御意見ニ對シマシテ、

質問デナクテ希望ヲ申述べテ次ノ質問ニ移

致シマシタ、アレニ對シマシテ飼料土性、

種畜方面ノ研究ヲシタイケレドモ經費ガナ

イト云フコトデアリマス、農林省ニ言ウテ

モ費用ヲ吳レナイト申シテ居ツタ、サウシ

マスト、只今仰セラタ所ノ御意見ト、試

驗場デ言フコト御話が合ハナイデハアリ

マセスカ、是ハドウ云フ譯デアルカ、今一

度御説明ヲ願ヒマス

○岸政府委員 畜產試驗場ノコトハ畜產局

ニ關係スルコトデアリマス、馬ノ行政ハ馬

政局ノ關係デ、畜產獎勵ハ馬政局デハ積極

的ニヤツテ居リマセヌ、飼料ノ點ニ付キマ

シテハ畜產試驗場設立以後、各種ノ飼料ノ

分析研究ヲ實行シテ居リマス、分析ノ點ニ

付テハ略々完了シテ居ルト思ヒマス、飼育地

ノ問題ニ付テモ研究ヲ進スラレテ居リマス

ケレドモ、何分ニモ只今仰シヤツタヤウニ

非常ニ廣汎デアリマシテ、尙ホ之ヲ飼養試

驗ニ向ケルト云フコトニナリマスルト、現

在ノ施設ノヤウナモノヲ竝行シテ何トヤ

ラナケレバナラヌ、又資材其ノ他ノ關係デ

中々困難デアリマス、私共モ先刻書記官ガ

言ハレタト同ジヤウニ、出來レバ其ノ點ハ

調査シテヤリタイト考ヘテ居リマス、尙ホ

先程半關係ノコト、就中牛ト草性ノ關係、

或ハ土性ノ關係等ニ付テハ、中國ニ牛ノ改

良ヲ專門ニスル畜產試驗場ノ中國支場ト云

フモノガ設ケラレテ居リマス、ソコニ於テ

日本牛ヲ中心トシテ有ユル關係ノコトヲ研

究スルヤウニ目下ヤツテ居リマスケレド

モ、未ダ其ノ成績ヲ發表スルマデニ至ツテ

居リマセヌ

○深澤委員 私ハ今ノ御意見ニ對シマシテ、

質問デナクテ希望ヲ申述べテ次ノ質問ニ移

致シマシタ、アレニ對シマシテ飼料土性、

種畜方面ノ研究ヲシタイケレドモ經費ガナ

イト云フコトデアリマス、農林省ニ言ウテ

モ費用ヲ吳レナイト申シテ居ツタ、サウシ

マスト、只今仰セラタ所ノ御意見ト、試

驗場デ言フコト御話が合ハナイデハアリ

マセスカ、是ハドウ云フ譯デアルカ、今一

度御説明ヲ願ヒマス

○岸政府委員 畜產試驗場ノコトハ畜產局

ニ關係スル所ノ經驗ハ、之ヲ歐羅巴諸國ニ比

べテ見マスト遙ニ短期間デアリマスノデ、

日本ニ於ケル馬ノ資質ハ其ノ後著シク向上

致シテ參リマシタ次第デアリマス、唯馬產

ニ關係スル所ノ經驗ハ、之ヲ歐

折レルヤウニ思ハレル、サウ云フヤウナ自然條件、又社會條件ニ於テ有ユル施設ヲ完備シテ、向フカラ持ツテ來タ種馬ニ優ル種馬ヲ作ルヤウニト云フ私ノ希望ヲ申上ゲ、御努力ヲ御願シテ次ノ質問ニ移リタイト思ヒマス

次ハ馬ノ經濟關係カラ一寸御伺シタイノデスガ、外國カラ輸入スル民間ノ種牡馬、又政府デ御買上ニナツテ外國カラ輸入スル所ノ種牡馬ノ一箇年間ノ總金額ハドノ位ニナツテ居リマスカ、ココ五箇年間ノ購入價格ヲ御示ヲ願ヒタイト思ヒマス

○村上政府委員 十四年度ニ於キマシテハ總數ガ二十四頭デゴザイマシテ、平均ガ二千七百七十三頭ニナツテ居リマス

○深澤委員 其ノ次ニ、英米佛獨ノ有能馬——有能馬ニモ輕種、重種、中間種幾ツモアリマスガ、本邦產馬ノ有能馬トノ能力比較ヲシタ結果ヲ伺ヒマス

○村上政府委員 是ハ比較調査シタモノハゴザイマセヌガ、各地ニ於キマシテ軍馬等ニ付キマシテハ何處モ中間種ヲ採ツテ居リ

○深澤委員 其ノ次ニ、英米佛獨ノ有能馬——有能馬ニモ輕種、重種、中間種幾ツモアリマスガ、本邦產馬ノ有能馬トノ能力比較ヲシタ結果ヲ伺ヒマス

○深澤委員 牛羊ノ方面ノ牧野ニ對スル千七百七十三頭ニナツテ居リマス

○深澤委員 其ノ次ニ、英米佛獨ノ有能馬——有能馬ニモ輕種、重種、中間種幾ツモアリマスガ、本邦產馬ノ有能馬トノ能力比較ヲシタ結果ヲ伺ヒマス

○深澤委員 是ハ比較調査シタモノハゴザイマセヌガ、各地ニ於キマシテ軍馬等ニ付キマシテハ何處モ中間種ヲ採ツテ居リ

○深澤委員 向フデサウ云フ馬ヲ作ル育成費、生産費ハドノ位デアリマスカ、御調ノ結果ヲ御聽致シマス

○村上政府委員 ソレハ持ツテ居リマセス

○深澤委員 今度ハ有能馬ノ民間育成費ト、國デオヤリニナツテ居ル所ノ育成費ノ比較

○村上政府委員 國デ作リマスモノハ大體

主トシテ種馬デナイ普通ノ有能馬デアリマス

スノデ、其ノ育成費ニ於テハ非常ナ差異ガ

アリマス、日本ノ種馬育成所ニ於キマシテ

掛リマス所ノ費用ハ御手許ニ差上ガマシタ

材料ニ依リマスト、二歳デ三百五十四圓、三

歲デ三百八十圓、四歳デ五百六十八圓ト云

フヤウニナツテ居リマス、是ハ昨年一箇年

ノ飼養費及ビ管理費ヲ合算シタモノデアリ

マス、之ニ反シテ民間ノ育成費ト云フモノ

ハ、是ハ的確ナ調査ガ十四年度ニ對應スル

モノハゴザイマセヌ、私ノ方デ馬產實態調

査ヲ年々ヤツテ居リマスガ、今マデ計數ノ

集リマシタノハ昭和十二年デアリマスカ

ラ、大分比較ガ困難デアリマスガ、之ニ依

ト組合セニナリマシテ、地方事情ニ應ジテ

來ルカドウカ分リマセヌガ、兎ニ角調査シテ見マス

○深澤委員 次ニ御伺シマスガ、農林省ニ對スル牧野ノ內容ヲ御聽致シマス

○深澤委員 國デ作リマスモノハ大體

ノ農家ノ馬ヲ所有スル頭數ガ〇・二二一トカ、

ト其ノ方面ノ關係ヲ御伺致シマス

○岸政府委員 牛羊ノ方面ノ牧野ニ對スル

要求ノ點ニ付テ申シマスト、之ヲ完全ニ牛

ノ方ニ付テ要求スルト云フコトニナルト非

常ニ大キナ面積ニナルノデアリマス、ソコ

ノデ之ヲ農家飼養ヲ増加スルト云フ計畫カラ

マスト非常ニ心細イ數字デアリマス、ソコ

ノ農家ノ畜牛ト云フモノハ大體他ノ農業經營

ト組合セニナリマシテ、地方事情ニ應ジテ

發達シテ居リマスノデ、牧野ニ對スル要請

モ隨テ其ノ間ニ於テ色々差ガアルノデアリ

マス、私共ト致シマシテハ理想形態ニ依ツ

テサウ云フヤウナコトヲ考ヘテ行キタイト

云フヨリモ、地方ノ農村ノ關係ヲ考ヘマシ

テ、出來得ル範圍ニ於テ其ノ要求ヲ充シテ

行クヤウナ考ヘ方ヲシタイト思ツテ居リマ

ス、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマシテ、寧

ロ其ノ間ニアツチ或ハ牧野ノ利用ノ集約度

ヲ高メ、或ハ民間ノ放牧ト云フヤウナコト

ヲモ考ヘテ居ルノデアリマシテ、隨ヒマシ

テ牛ノ牧野ニ對シマシテモ、積極的ニ是ダ

ケノモノヲ要求スルダケノ計畫ヲ致シテ居

リマセヌ、大體現狀ノ組織ニ於テソレヲ集

約的ニシテ行ク、取敢ヘズサウ云フヤウニ

シテ行クト云フ考ヲ持ツテ居リマス、尙ホ

羊ニ付キマシテハ先づ現在ノ狀態ニ於テ極

ク發達ノ途上ニアリマスノデ、積極的ニド

ウスルト云フコトニナツテ居リマセス

○小笠原委員 一寸關聯シテ——飼料問題

ニ付キマシテ、今回馬ノ方ノ飼料ヲ全國ニ

配給シタ數量ヲ各府縣別ニ分ケテ、大豆粕

茲ニ大豆、二月分、三月分ヲ價格ヲ添ヘテ御答辯出來レバ只今御答辯願ヒマス——只今分リマセヌケレバ後刻資料トシテ御提出願ヒマス

○深澤委員 政府ノ統計ヲ見マスト、日本牛ナラバ〇・四二六丁度四軒寄ツテ馬一頭、

二軒寄ツテ牛一頭ト云フ風ニ、平均シテ見

マスト非常ニ心細イ數字デアリマス、ソコ

デ之ヲ農家飼養ヲ増加スルト云フ計畫カラ

見マシテ、農家ニ何處マデ馬ヲ持タセルト

云フ御方針カ、之ヲ農林省方面カラ御聽シ

タイノデアリマス

○村上政府委員 只今農家デ馬ヲ飼養シテ

居ル農家ハ約百万軒ト思ツテ居リマス、之

ヲ以前ニ比べマスト一割位ハ減ツテ居ルト

思ヒマスノデ、私共トシテハ之ヲ前ノ通り

位ニ回復サセタイト考ヘテ居リマス

○深澤委員 大體ノ趨勢ハ馬が減ツテ牛ガ

殖エルト云フ一ツノ現象ガ見エテ居リマス

ガ、是ハ軍ノ方カラ見レバ非常ニ遺憾ノ點

デアリマス、日本ノ農家ニハセメテ馬一頭

位持タセタイト云フコトヲ——是ハ日本フ

農業經營ト關係シテ來マスケレドモ、セメ

テ其ノ程度マデ増サセナケレバ、是カラノ

軍ノ需要ヲ臨時ニ必要ナ場合ニモ供給シ得

ナイト云フヤウナ結果ニ陷ルト思フノデア

リマス、現在ノ牧野カラ見マシテモ、日本

ノ土地利用價值カラ見マシテ、大體三町歩

リマス、現在ノ牧野カラ見マシテモ、日本

スノニ手ヲ使ツテ居ル、全耕地六百万町歩
ノ上カラ見マスト、約六割ト云フ土地ハ牛
馬デ耕スケレドモ、四割ト云フ土地ハ手デ
耕シテ居ル、極言致シマスト、馬カ爲スベ
キ仕事ヲ貴重ナ人間ノ力ヲ以テヤツテ居ル
ト云フ點カラ、外國トノ經濟力、生産力ヲ
争フ點カラ見マシテモ非常ニ遺憾ノ點ガア
ルノデアリマス、此ノ點カラ見マシテモ畜
力ヲ増加シテ、人力ヲヨリ以上有效ニ國ノ
仕事ニ利用スルト云フコトハ、現下ノ情勢
カラ見テモ平和ノ時ニ於テモ當然ノ歸結ニ
落チテ來ルト思ヒマス、此ノ點ニ對シマシ
テ畜産ヲドノ程度マデ殖スカ、馬ハ宜シウ
ゴザイマスカラ、役牛、乳牛ニ對スル當局
ノ御所見ヲ今一應御伺シタインデアリマス
○岸政府委員 牛ニ付キマシテハ、十四年
度カラ例ノ五箇年計畫ヲ以テ家畜ヲ殖ヤス
ト云フコトニナリ、其ノ一環トシテ牛ノ增
殖ヲヤルト云フコトニナツテ居ル譯デアリ
マス、其ノ中デ馬、牛ノ中ニ乳用牛アリ、役肉
用牛ガアリ、兩者併セテ五年後ノ十九年ニ、
百七十七万頭ヲ二百五十万頭程ニスルト云
フコトニナツテ居リマス、是等ハ畜力自體
カラ見マシタナラバ、日本ノ耕地面積ニ較
ベルト非常ニ數ガ多過ギルト云フヤウナコ
トニナルト思フノデアリマス、凡ソ畜力ナ
ラバ、牛一頭デニ二町歩乃至三町歩ト云フノ
ガ一番經濟的ニ行クト思ヒマス、今申シマ
スヤウニ日本農業ハ極メテ複雜ナ關係ニア
リマス、隨テ其ノ狀態ニ於テ育テラレテ居
ル牛、馬ト云フモノモ、其ノ要求ガ色々ノ
點カラ爲サレテ居リマス、寧ロドチラカト申
用スル、隨テ農業經營ノ小サイ所デアレバ

之ヲ共同利用シテ——五反七反ノ農家ナラバ
バニ軒三軒デ利用シテ行クト云フコトガ官
イノデハナイカト考ヘマス、畜力ノ點カラ
言ヘバ、先程申シマシタ數ニ達スルナラバ
十分餘裕ガアルト考ヘテ居リマス、私共ノ
頭位ニ描イテ居ル事情カラ申シマスレバ、大
家畜ト小家畜ト關聯シテ、丁度一町歩ニ二
頭位ニ蕃殖サレレバ好都合デハナイカ、斯
ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、畜産ノ増産目
標モ大體ソコラヲ組ツテ企畫シテアルノデ
アリマス。

○深澤委員 農林省ノ牧野計畫ハオ立テニ
ナツテ居ルト聞イテ居リマスガ、其ノ概要
ヲ御聽シタイ

○村上政府委員 従來ノ牧野ヲ維持改良ス
ルト共ニ、今後國有林ニ於テ、内地ニ於テ
百數万町歩、北海道ニ於テ二十八万町歩バ
カリ提供スル、其ノ他新タニ民有未利用地
ヲ牧野化スルモノデ二十數万町歩豫定シテ
居リマス

○深澤委員 年限ハ何箇年ニオヤリニナル
ノデスカ

○村上政府委員 國有林ヲ提供スルモノハ
出來得ル限り早ク致シタイ、私一己ノ考ヲ
言ヘバ、明年度内位ニヤリタイト思ヒマス
ガ、是ハ色々ナ關係ガアリマスゾデ、全部
ハソレデハ完了出來ナイト思ヒマスガ、少
クトモ短期間ニ實行政致シタイ、唯未利用地
ヲ利用セシムルコトハ、是ハ民間ノ畜產組
合ナリ、牧野組合ナリ、府縣ナリ、市町村
ガ動イテ參リマセヌト出來マセヌノデ、ソ
レダケノモノガ直グ出來ルト云フ譯ニ行き
マセヌガ、是等モ牧野法ガ成立致シマスレ
バ、必ズヤソチラノ方面モ是ニ動イテ來ル
ト思ヒマスノデ、ヤハリ五年位ノ間ニハ出

○深澤委員 牧野ノ經營ヲ地方團體ト申マスカ、畜產組合其ノ他デアリマスカ、經營スル場合ニ於テ、一團地中ニ飛地ト云モノガ出テ來マス、此ノ飛地ヲ交渉シテ委員會ニ懸ケテ借リルトカ借リナイトカ云コトガ不調ニ終ツタ場合ニハ、無論土地應用法ト云モノニ依ツテヤルカ、強制的借用リルコトガ出來ル位マデニ話ガ進メラレト思ヒマス、サウ云フ時ニ土地ヲ買ハセレバナラヌ場合ニ於ケル金融關係ト云ニヤウナゴトニ付テノ、政府ノ御考ヲ御聽テ置キマス。

○村上政府委員 土地ヲ買ハナケレバナス場合ニ於テ、政府ノ方デ低利資金ヲ融通スルカドウカト云フ問題ハ、政府トシテニ考ヘナケレバナリマセヌ、左様ナ問題ガ進メラシタ時ニハ、十分其ノ方面ノ官廳連絡ヲ取リマシテ、其ノ實現ニ努メタイト田ヒマス。

○深澤委員 モウ一二御聽シタイノデアリマスガ、是ハ一寸速記ヲ中止シテ戴キマス。

〔速記中止〕

○小林委員長 野溝君

○野溝委員 私ハ極ク簡單ニ數點ノ質問致シタトイ思ヒマスカラ、當局ノ方デモ皆簡單ニデハサク、率直ニ御答辯ヲ願ヒタト思ヒマス、第一ニ獸醫師法ノ臨時特別關スル法律案ニ付テデアリマスガ、本法律案ノ軍馬資源法案及ビ種馬統制法案等、立法サレマシタツノ敷衍ト、私ハ見テツタノデアリマス、特ニ前議會ニ於キマス。

ヲ改正シテアルノニ、茲ニ新シイ獸醫手ヲ
養成スルト云フコトハ、業者ノ人々ニ不安
ガアルノデハナイカト云フコトニ對シテ御
尋ニナツタノデアリマスルガ、只今此ノ制
度ヲ實施シヨウトスル狙ヒ所ハ、今野溝サ
ンノ仰シヤツタ通リデアリマス、隨ヒマシ
テ私共ハ獸醫師トシテノ目標ハ、法律ノ制
定ニ相成リマシタ時ト同ジク、現下ノ畜產
ノ發達、獸醫事ノ進歩ノ狀態ニ鑑ミマシテ
専門學校以上ノ學力ヲ持ツテ居ル者トスル
方針ハ變ヘナインデアリマス、隨ヒマシテ
其ノ法律ニ對シテ斯ウ云フヤウナ制度ヲ作
ツタ譯デアリマスガ、只今ノ獸醫師ノ需要
ノ狀態カラ申シマスト、此ノ專門學校以上
ノ生徒ノ養成サレテ行ク數ハ、來年度以降
ニ於テ相當學校ノ増設、或ハ養成人員ノ増
加ガアルニ致シマシテモ、尙ホ非常ニ不足
シテ居ル狀態デアリマス、是ハ一面ニ軍ノ
需要モアリ、國、道、府縣等ノ需要モアリ、又
高級指導者トシテ外地及ビ滿支等ノ方面ニ
於テモ需要ガアルノデアリマシテ、其ノ需
要ノ程度ト云フモノハ、私共ガ嘗テ想像シ
テ居ツタヨリモ、特ニ甚シイノデアリマス、
近時ニ於ケル需要ノ範圍ト云フモノハ、往
年ノ診療醫ノ意味デナクシテ、非常ニ各方
面ニ瓦ツテ居ルノデアリマス、隨テ今計畫
サレテ居ル養成ガアリマシテモ、尙ホ之ニ對シ
ナル不足ヲ見マス現狀デアリマスノデ、是
等ノ人ノ前途ニ對シテ決シテ不安ガナイバ
カリデナク、益、働ク途ガ多イト云フコト
ヲ考ヘテ居ルノデアリマス、尙ホ之ニ對シ
マシテ新シイ制度ニ於テ養成シマシタ者
ハ、昨年ノ議會ニ於テ非常ニ問題トナリマ
シタ産業ノ第一線ニ於テ働ク人ガ、非常ニ
減ツテ來テ居ルト云フ點ニ著眼致シマシテ、

前ノ獸醫師ニ對スル方針ヲ堅持シツツ、目
下ノ要望ヲ充足スルニハ何等カ斯ウ云フヤ
ウナ制度ヲ作ツテ行クノデナケレバ、需要
ヲ充シ得ナイト云フ考カラ出テ參ツタノデ
アリマスガ、其ノ養成ヲサレ、試験ヲサレ
テ獸醫手ニナル者ノ前途ニ付キマシテモ、是
ハ獸醫師ノ方ト同ジアリマス、實ハ昨年
ハ中等學校程度ノ卒業生ガ相當ニ多ク、私
共ハ千名以上ノ獸醫師ガ出ルノデ、私共ノ
關係施設ニ於テモ相當採リ得ルト考ヘテ居
ツタノデアリマスガ、ソレガ殆ド何處へ行
ツタカ分ラヌヤウナ狀態ニ、皆片付イテ行
ツタヤウナ狀態デアリマス、是等ノ點ヤ、
又外地満支ニ於ケル將來ヲ考ヘテ見マス
ト、相當多數ノ人ガ要ル譯デアリマスノデ、
是等ノ養成ヲスル人ノ數ガ、計畫デハ十年
間デ約五千名程ニナツテ居リマスガ、恐ラ
クサシタル苦勞モナク、片付イテ行クコト
ト思ツテ居ルノデアリマス、是等ニ付キマ
シテハ各方面ノ需給ノ關係ヲ慎重ニ考慮致
シマシテ、計畫ヲ致シタ次第デアルノデ、
私ハ兩者共其ノ前途ニ於テ不安ガアルコト
ハナイト考ヘテ居リマス

ル、其ノ施設ニ對シテハ大イニ助成ヲスル覺悟ダト云フ御答辯ガ、委員會ニ於テアツタコトヲ記錄ニ依ツテ見マシタガ、私ハレバナラヌモノハ、折角獸醫師ノ特別臨時立法ヲ作リマシテモ、今日残存シテ居ラレマス所ノ獸醫師諸君ノ事業ガ非常ニ微力デアリマス、ソコデ私ハ日本獸醫師會ト申シマセウカ、斯ウ云フ一つノ指導的團體、生産其ノ他ノ技術ニ於ケル所ノ有力ナル指導團體ニ對シマシテ政府ハ積極的ニ助成ヲシ、此ノ發達ヲ期スルコトニシナケレバ折角ノ畜產馬政計畫等一切ノ計畫ノ目的ヲ達シ得ルコトハ出來ナイコトニナルノデハナイカト云フコトヲ私ハ憂慮スル者デアリマス、醫者ノ社會ニ於テハ醫師會ガアリ、藥屋ノ方ニ於キマシテハ、藥劑師會ガアリ、是等ヲ政府ハ助成シテ居ル、此ノ國防大計畫ヲ遂行スル際ニ、政府トシテハ其ノ指導的團體デアル所ノ獸醫師會ニ對スル助成ガ足ラナイノデハナイカ、私ハ是ハ農林省ヨリモ軍ニ申上ゲタイト思フ、斯ウ云フ立法ハ軍ト協力ノ上出來タト私ハ思フシ、又曩ノ議會ヲ通シテモ確ニサウデアツタ、然ルニ其ノ人的資源ヲ作ラセルダケ作ラシテ置イテ、ソレニ對シテ助成モシナケレバ、指導モシナイ、ソンナ馬鹿ナコトハナイ、一方ニ於テハ競馬協會ノヤウナ箇捧ニ金ヲ儲ケテ、其ノ金ノヤリ場ニ困ツテ居ル所ノ團體ガアル、サウ云フ金ヲ實際必要ナ指導的團體ノ方ニ還元サシテ、サウシテ此ノ目的デアル所ノ馬政計畫ナリ、或ハ畜產ノ増產計算ナリニ與ヘルト云フ方針ヲ執ラナケレバナラスト思フ、監督ノ任ニアル所ノ軍並

○岸政府委員 今日獸醫師ノ不足シテ居ル際ニ、獸醫師會ニ積極的ノ活動ヲスルヤウニスルコトガ必要デハナイカ、之ニ對シテ助成ヲスル必要ガナイカ、斯ウ云フ御尋ノヤウニ承リマシタガ、御尤モナコトデアルノデアリマス、獸醫師會ガ出來テ暫ク致シマシテ、獸醫師ニ對スル知識ノ普及及ビ向土ヲ圖ル爲ニ、ソレニ對シテ助成ヲ致シテ相當活動シテ戴イタコトガアリマスルガ、今日ノ實情ニ於キマシテモ、其ノ獸醫師會ナルモノノ人的資源ノ活動ヲ圖ツテ行クト云フコトハ、是ハ現下極メテ必要デアルト思フノデアリマスノデ、從來モ色々斷片的ニ計畫ヲシテ、助成ヲシテヤツテ戴イタモノモアリマスルガ、私ノ方ト致シマシテモ、斯界ニ於ケル活動ヲ一層容易ナラシムル爲ニ、十分御趣旨ノ點ヲ考慮シ、研究シテ行キタイト考ヘテ居リマス

○野薙委員 軍ノ御所見ヲ一ツ御伺シタイト思ヒマス

○森田政府委員 御答致シマス、獸醫師會及ビ裝蹄師會ノ活動ト云フコトニ付キマシテハ、軍馬資源ノ涵養、特ニ乘馬ノ衛生向上ト云フ點カラ軍ト致シマシテモ多分ニ關心ヲ持ツテ居ル次第アリマス、是ガ活動發展ノ爲ニ助成ヲスルト云フコトハ、只今農林省ノ方カラ答辯サレマシタ通りデ、結構ノコトト考ヘテ居ル次第アリマス

○野薙委員 山岸局長ニ結論ダケ御聽キスルノデスマガ、考慮研究ト云フコトハ、其ノ期待ニ副フト云フ風ニ解釋シテ宜イデセウ

○野澤委員 ソデレハ獸醫師會ノ方ハ是デ打
切りマシテ、次ニ家畜傳染病ニ付テ一二點
御聽キヲシタイト思ヒマス、本法案ハ資源
愛護ノ立場カラ最必要ナ法案ダト思ヒマ
ス、此ノ中ニ「ダニ」ト云フモノヲ入レテアル
ノデスガ、一體「ダニ」ノ如キモノヲ入レルコト
ニナルト、恐ラク馬ノ病氣、牛ノ病氣其ノ
他家畜一切ノ病氣ト云フモノモ入レナケレ
バナラヌト思フノデスガ、私モ専門家ト云
フ譯デモアリマセヌケレドモ、是ハ實ニ異
様ニ感ジテ居ルノデアリマス、斯ウ云フモ
ノデ今度ハ規定サレルト云フコトニナルト、
相當窮屈ナコトニナルト思フノデス、是ハ
相當何カ御考ガアツタコト思フノデアリ
マスガ、若シ御考ガアルトスルナラバ、全國
的ニ見テドウ云フヤウナ家畜ニ影響ヲ來シ
テ居ルカ、御所見ヲ御聽キシナイト、私共
ガ委員會ニ出テ來テ居ツテ「ダニ」ヲ通スト
云フコトニナルト、何ヲシテ居ルト云フコ
トニナツテ、人ハ笑ハレルトイケマセヌカ
ラ、宜シク御答辯ヲ願ヒマス。

狀態ヲ呈シ、黃疸ノ狀態ヲ呈シ、色々故障ガ出テ來テ、遂ニ斃レルモノガアルノデス、急性ノ場合ニ於テハ、七〇%モ命ヲ取ラレル、先年沖繩等ニ於テハ非常ナ被害ガアツタ譯デアリマス、之ニ對シテハ各方面ニ於テ其ノ豫防治療ノ方法ヲ研究シテ參ツテ居ルノデアリマスガ、各地方ノ豫防ノヤリ方ガ非常ニ區々デアリマシタノデ、結局豫防法邊上ノ效果ヲ十分譽ゲ得ナカツタ憾ミガアツタノデアリマス、之ニ對スル豫防治療ノ方法モ、只今ハ「イスラビン」及び毒素ヲ使フコトニ依リマシテ、治療豫防ノ效果ヲ擧ゲルヤウニナツテ參リマシタノデ、此ノ際法律ニ入レマシテ、法的根據ヲ以テ徹底的ニ豫防法邊ヲヤリマシタナラバ、畜牛ニ及ボス被害ハ、十分防止シ得ルト云フ考ノ下ニ入レタノデアリマス

五百圓、一方ハ改正サレテ五十圓以下ノ過料ト云フコトニナツテ居リマス、斯ウ云フノデハ此ノ家畜ノ傳染病ニ類似シタ一切ノ結核病等ノ取締上ニ於テ、非常ニヤリ悪クナルト思フノデアリマス、結核豫防法ノ如キハ、大正十年ニ出來タ法律デ、非常ニ古イノデアリマスカラ、此ノ家畜傳染病ト睨ミ合セマシテ、是等ノ法案ナドモ改正ヲサレタ方ガ宜イト思フノデアリマスガ、今期議會ニハ間ニ合ハナケテモ、次ノ議會ニ於テハ結核豫防法ノ改正ヲスル意思ガアルカナイカ、御伺シテ置キタイト思ヒマス

○岸政府委員 御答ヲ申上げマス、結核病豫防法ノ罰則ハ、舊刑法ノ規定ニ依ツテ作ツタモノデアリマシテ、率直ニ申上げマスト新刑法ニナツタ時ニ直シテ居ラナカツタノデアリマス、隨テは來年ニデモ、御話ノヤウニ他ノ方ト一緒ニ改正致シタイト思ヒマス

○伊藤委員 此ノ際裝蹄師法案、家畜傳染病豫防法中改正法律案、牧野法中改正法律案、獸醫師等ノ臨時特例ニ關スル法律案ノ質疑打切ノ動議ヲ提出致シマスカラ、御贊成ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小林委員長 只今伊藤君カラ四案ノ質疑ヲ打切ルベシトノ動議ガ提出サレマシタガ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○小林委員長 満場一致、四案ニ對スル質疑ハ、之ヲ以テ打切ルコトニ決シマシタ、尙ホ討論採決ハ一先づ保留致シマシテ、此ノ際引續イテ木炭需給調節特別會計法案、日本瓦斯用木炭株式會社法案ニ對スル資料ノ要求ヲ御願致シマス

○高田委員 資料ノ御提出ヲ要求致シマス

第一ハ、最近國策會社が大分出來マシタ
ガ、政府ノ出資セルモノモアレバ出資セザ
ルモノモアリマス、而シテ其ノ成績へ何レ
モ吾々ノ豫期シテ居ル程度ニ達シシテ居ラナ
イト思ヒマス、又今度木炭ニ付テ此ノ會社
ヲ建テルト云フノデアルガ、現在マデノ國
策會社創立以來ノ貸借對照表 及ビ損失計
算表ヲ各別ニ示シテ戴キタイ
第二ハ内地(北海道樺太ヲ含ム)木材用立
木(「パルプ」用材ヲ含ム)ノ材積次ニ薪炭用
材ノ立木ノ材積(「パルプ」用材ヲ含ム)是等
ヲ國有林、公有林、民有林ニ區別シテ最近
ノ統計ヲ示シテ戴キタイト思ヒマス
第三ハ、内地(北海道樺太ヲ含ム)昭和十
一年以降昭和十四年マデノ各年別ニ薪木、
木炭、木材、「パルプ」、此ノ四種類別ニ供給
ト消費ノ材積ヲ示シテ戴キタイト思ヒマス、
而シテ木炭ニナツタモノニ付テハ、是ヨリ製
出シタル木炭ヲ家庭用、工業用、「ガソリ
ン」用ニ區別シテ、其ノ數量ヲ調査シテ戴
キタイト思ヒマス、是ハ十四年マデデアリ
マスケレドモ、無論十五年度分モ附加ヘテ
御示シヲ願ヒタイト思ヒマス、以上二ツノ
問題ハ統計ハ中々完全ナモノハナイト思ヒ
マスガ、大體ノモノノデ宜シイカラ御示シヲ
願ヒタ
第四ハ内地(北海道樺太ヲ含ム)ニ於ケル
昭和十一年以降十四年マデノ各年別ノ「パ
ルプ」、木材、木炭ノ輸移入及び輸移出ノ數
量竝ニ價格
第五ニハ昭和十一年ヨリ十四年マデノ紙
類ノ内外地ニ於ケル生産消費、及ビ輸移出
輸移入ノ數量、是ハ要スルニ紙ノ消費ノ狀
態ヲ伺ヒタイノデアリマス、木材ト關係ガ
深イカラデアリマス

第六ハ極メテ現實ノ問題デアリマス木炭ノ小賣公定價格、即チ家庭用、「ガソリン」用工業用ト區別サレマシテ、是ハ地方ニ依ツテ違フト思ヒマスカラ、東京ノ公定價格デ宜シウゴザイマス、而シテ其ノ公定價格ハドウ云フ所カラ算出サレテ居ルカト云フコトヲ詳細ニ伺ヒタイ、是モ青森縣ト栃木縣トデハ達ヒマスシ、所ニ依ツテ違ヒマスガ、私ニ一番能クフルノハ、栃木縣ノ炭デ、ソレガ東京ニ於テ櫟ガ幾ラ、檜ガ幾ラト云フノガアリマスカラ、其ノ價格算出ノ基礎ヲ願ヒタイ

第七ハ、是ハドウモアナタノ方デモドウカ知ラヌガ、非常ニ闇相場ガ多イ、其ノ闇相場ノ狀況ヲ示シテ戴キタイ(笑聲)マアア

ナタノ方デハ大體分ツテ居リマセウ

第八ハ、政府ガ配給セントスル十三都市ニ於ケル木炭賣業者ノ卸賣人、小賣人ノ數

果、是等ノ商人ニドウ云フ影響ガアルカト

云フコトヲ知ル基礎ニナルモノデアリマス、以上八點ノ御調查ヲ願ヒマス

○松尾委員 私モ資料ヲ要求致シマス、私ハ今高田委員ノ仰ヤラレタ資料ニ足リナイ所ガアルノデソレヲ一つ伺ヒタイ

第一ハ、製炭業者ノ數ヲ各府縣別ニ願ヒタイ、ソレカラ各府縣母ノ產業組合ニ屬スル製炭業者ト同業組合ニ屬スル製炭業者、其ノ三ツニ分類シテ其ノ數ヲ調べテ戴キタイ、ソレカラ、木炭會社ノ方ニ對スル資料トシテ

第一、木炭瓦斯發生機ノ種類ト其ノ製造者名、各製造者毎ニ書イテ戴キタイ

第二、薪木瓦斯發生機ノ種類ト其ノ製造者名

第三ハ、各府縣母ニ木炭瓦斯發生機、薪木瓦斯發生機ヲ現在取付ケテ居ル數及ビ使

用シテ居ル數ヲ、各別ニ調べテ貰ヒタイ

第四ハ、陸軍ニテ木炭瓦斯發生機並ニ薪木瓦斯發生機ヲ使用シテ居ラレル數ヲ、各別ニ調べテ戴キタイ

第五ハ「ガソリン」、木炭瓦斯、薪木瓦斯ノ各機每ニ其ノ一臺ノ運行費用、一「キロ」當リドレダケ要スルカ、是ダケヲ私ハ要求致シマス

○坪山委員 私モ一ツ、本法ヲ施行シタ場合ニ政府デ目論シテ居ル薪炭ノ生産ノ各府縣別調、各府縣ニ大凡ドレダケ割當ヲ目論ンデ居ルノカ、ソレニ關聯ヲシテヤハリ消

費ノ各府縣別ノ明細書ヲ御願致シマス

○野澤委員 私ハ各府縣ノ木炭ノ生産費ハ

各、違フト思フノデス、府縣ニ於テモ地方

地方ニ依ツテ違フト思ヒマスガ、大體其ノ

地方ニ綜合シタ平均「コスト」木炭ノ生産費、

一貫目或ハ一俵ナリノ生産費ノ平均値ヲ、

各府縣別ニ御知ラセラ願ヒマス

○小林委員長 他ニゴザイマセヌカ——ゾ

レデハ本會議ニ重要な法案ガ上ツテ居リマスカラ、之ヲ以テ散會ヲ致シマス

午後五時二分散會

(小笠原委員發言參照)

昨年ノ十月軍馬ノ要望スル馬ノ生産ヲ目的トシテ低利資金ヲ政府ヨリ借用シテ候補種牝馬ヲ購入シタ、之ニ付テ其ノ経費ヲ計算スルト左ノ通りニナル

購買價格

年齡

粗飼料

野干草

糞

大豆一升

米糠一升

穀五合

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

一圓六十錢二厘五毛

累計

一圓六十一錢九厘

一箇月分

四十八圓五十七錢

二十一箇月分

一千十九圓九十七錢

粗飼料

野干草

糞

大豆一升

米糠一升

穀五合

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

一圓六十錢二厘五毛

累計

一圓六十一錢九厘

一箇月分

四十八圓五十七錢

二十一箇月分

一千十九圓九十七錢

粗飼料

野干草

糞

大豆一升

米糠一升

穀五合

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

米糠一升

十二錢五厘

八錢七厘五毛

合計

燕麥四升

麩一升五合

十四錢

四十錢

大豆一升

二百七十圓ヲ要ス、十七歳迄ノ馬一代ト
見テ生産馬ハ六七頭ト見ルハ普通デアリ、
内牝馬モアルコトナレバ、軍馬ハ馬一代
ニ一頭平均位ノモノデアル、仍クテ資源
確保ニ對シテハ、適正價格トシテ平均少
クトモ六七百圓ヲ見ルベキデアル、殊ニ
購買スルトシテモ七月ニ購買スベキ場所
ト、十一月ニ購買スベキ所ニ於テハ、育
成費ノ五六十圓ノ差等ヲ必要トスル

合計金利共

一千七百五十二圓八錢二厘五毛
内譯金利 七十五圓

二歲

九十一圓七十七錢

三歲

五百六十五圓三十四錢二厘五毛

四、五、六歲 一千十九圓九十七錢
一箇年 三百三十九圓九十九錢
十箇年 三千三百九十九圓九十錢
合計

五千五百五十一圓九十八錢二厘五毛
收入ハ馬六頭生産スル、種牡馬候補一頭一
千五百圓、後ノ五頭三千圓（一頭六百八十
之等ノ育成費一頭一箇年二百七十圓ト見
ル六頭デ一千八百二十圓残二千六百八十
圓親馬ヲ購買價格ニテ賣レタト見レバ二
千四百七十一圓九十八錢二厘五毛ト云フ
計算ニナル、之等ハ馬ノ種類ニ依ツテ、多
少ノ増減ガアル、軍馬ノ乗馬生産ヲ目標
トスレバ餘り間違ヒハナイ、尤モ今後ハ
肥料價值ノ指導並ニ飼料ノ改善、馬ノ使
役利用等ノ經濟化ヲ圖ラネバナラヌコト
ハ勿論デアル

斯ウナルト更ニ輕種又ハ種馬等ノ生
產ト、輓馬等ノ生產トノ方針ヲ、別ニ
定メル必要ガアル、併シ今年ノヤウナ

急激ルナ諸物價ノ暴騰ニ依リ、適正ナ
ラシムルニハ、之ガ對策トシテハ、先づ
購買價格ニ思ヒ切ツタ吊上ドヲナシ、之
ガ適正ヲナラシメナケレバナラヌノデア
ル、一面使役地ニ對シテハ、購買ノ助成
ヲシテ其ノ調和ヲ圖ラナケレバナラヌ、之
從來ハ農家ニハ餘リ良イ仕事が無カツタ
ノデ、馬產ハ農家ノ片手間ニ副業的ニヤ
ツタノデアツタガ、最近ハ地方ニモ軍需
工業ダ、電氣事業ダト云フモノガ起ツ
テ、勞働力ガ高クナリ、奪合ツテ人夫ヲ
募集スルヤウニナツタノデ、農民ノ諸物
價暴騰ノ嵐ニ、算盤ヲ置クヤウニナリ、
經濟的ニ目ザメルヤウニナツタ爲メ、馬
產ニ大キナ影響ヲ與ヘルヤウニナツタノ
デアル、之等ノ傾向ヲ放任シテ何時迄モ
昔ノ百姓ノ積リデ馬產ヲ考ヘテ居タナ
ラ、馬產計畫ハ忽チ狂ツテ來ルト云フコ
トヲオ考ヘ願ヒタイト思フ

昭和十五年三月十七日印刷

昭和十五年三月十八日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局